

令和2年度

教 育 要 項

介 護 福 祉 科

学校法人 東洋学園

宮崎医療管理専門学校

目 次

序	文		
	授業科目及び単位数	1	
	時間割表	2	
第1学年	3	第2学年..... 59	
人間の理解 I	5	社会の理解 II	61
人間の理解 II	7	社会の理解 III	63
社会の理解 I	9	介護の基本 II	65
社会の理解 II	11	生活支援技術 II	70
介護の基本 I	13	生活支援技術 IV	73
コミュニケーション技術 I	19	介護過程 II	76
コミュニケーション技術 II	22	介護過程 III	78
コミュニケーション技術 III	24	介護総合演習 II	81
生活支援技術 I	26	認知症の理解 II	83
生活支援技術 III	28	障害の理解 I	85
介護過程 I	32	障害の理解 I	87
介護総合演習 I	35	障害の理解 II	89
介護実習	38	こころとからだのしくみ III	91
発達と老化の理解 I	40	医療的ケア II	93
発達と老化の理解 II	42	情報機器演習	95
認知症の理解 I	44	全学連携演習 I・II	96
こころとからだのしくみ I	46		
こころとからだのしくみ II	48		
医療的ケア I	51		
レクリエーション活動援助法	56		

～ごちゃまぜスクール～

序 文

21世紀を迎えた現在、我が国は世界のどの国も経験したことのない超高齢社会を迎え、医療・福祉の分野には大きな渦が巻き起こっています。人口構造からみた少子化・超高齢化の傾向は、年々拡大し、医療・福祉ニーズの増大と多様化への対応など、社会全体の緊急に解決されなければならない深刻な課題として私たちに投げかけられています。

また、医療保険・年金保険・社会福祉制度の改革等が行なわれ、人々が自立した日常生活を営むことができるための適切な医療・福祉サービスの提供、また医療・福祉・保健の有機的な連携と地域福祉の更なる推進が今後ますます求められてまいります。

昨今、様々な職種で人材不足が叫ばれている中、皆さんは将来、医療機関や社会福祉関係施設、その他関連した職場で、マネジメントリーダーとしての活躍が期待されております。それぞれの職種に必要とされる専門的な知識や技術を学び、強い精神力と行動力の発揮できる人材を目指して下さい。そして、本校の建学の精神でもあります「よき医療・福祉従事者であるとともに情操豊かな人格者であれ」という人間性の確立を目指し勉学に励むことを期待します。

この教育要項は、本校で学ぶ各学科目についての「学習目的・目標・内容」等の指針が示されています。これらは皆さんが計画的かつ主体的に学んでいくための重要な情報で学習意欲の向上に役立つものです。学生生活をより有効に、より有意義に過ごせるよう各学科目についての理解を深め、科目間の関連をよく把握するため、この教育要項を十分に活用することを希望します。

なお、各教科に関連する専門図書を多数用意しておりますので、学習内容を補強するためにも、図書室の有効活用を奨励します。

令和2年4月1日

学 校 長 川野竜太郎

【介護福祉科】

授 業 科 目		卒業要件		授業形態			履修時期	
		単位数	時間数	講義	演習	実習	1 年	2 年
人間と社会	人間の理解 I	2	30	○			○	
	人間の理解 II	2	30	○			○	
	社会の理解 I	2	30	○			○	
	社会の理解 II	6	90	○			○	○
	社会の理解 III	4	60	○				○
介 護	介護の基本 I	6	90	○			○	
	介護の基本 II	6	90	○				○
	コミュニケーション技術 I	2	30	○			○	
	コミュニケーション技術 II	1	30		○		○	
	コミュニケーション技術 III						○	
	生活支援技術 I	2	30	○			○	
	生活支援技術 II	2	90			○		○
	生活支援技術 III	3	90		○		○	
	生活支援技術 IV	3	90		○			○
	介護過程 I	2	60		○		○	
	介護過程 II	1	30		○			○
	介護過程 III	2	60		○			○
	介護総合演習 I	3	90		○		○	
	介護総合演習 II	1	30		○			○
	介護実習 I	2	80			○	○	
	介護実習 II	4	170			○	○	
	介護実習 III	4	160			○		○
介護実習 IV	1	40			○		○	
こころとからだのしくみ	発達と老化の理解 I	2	30	○			○	
	発達と老化の理解 II	2	30	○			○	
	認知症の理解 I	2	30	○			○	
	認知症の理解 II	2	30	○				○
	障害の理解 I	2	30	○				○
	障害の理解 II	2	30	○				○
	こころとからだのしくみ I	2	30	○			○	
	こころとからだのしくみ II	4	60	○			○	
	こころとからだのしくみ III	2	30	○				○
医療的ケア	医療的ケア I	5	75	○			○	
	医療的ケア II	1	30		○			○
その他	情報機器演習	1	30		○			○
	レクリエーション活動援助法	1	30		○		○	
	全学連携演習 I	1	15		○		○	
	全学連携演習 II	1	15		○			○
合 計		91	1995					

令和2年度 介護福祉科 時間割

1年 前期

		月	火	水	木	金	土
1	09:10 10:40	介護の基本 I	生活支援技術 I	コミュニケーション技術Ⅲ	生活支援技術Ⅲ	レクリエーション活動援助法	
2	10:50 12:20	介護の基本 I	発達と老化の理解 I	社会の理解 I	生活支援技術Ⅲ	レクリエーション活動援助法	
3	13:10 14:40	こころとからだのしくみ I	人間の理解 I	介護過程 I	社会の理解Ⅱ	こころとからだのしくみⅡ	
4	14:50 16:20	こころとからだのしくみ I	コミュニケーション技術 I	介護総合演習 I	ガイダンス・全学連携演習	こころとからだのしくみⅡ	

1年 後期

		月	火	水	木	金	土
1	09:10 10:40	発達と老化の理解Ⅱ	介護の基本 I	医療的ケア I	こころとからだのしくみⅡ	生活支援技術Ⅲ	
2	10:50 12:20	コミュニケーション技術Ⅱ	介護の基本 I	医療的ケア I	社会の理解Ⅱ	生活支援技術Ⅲ	
3	13:10 14:40	介護総合演習 I	介護過程 I	認知症の理解 I	人間の理解Ⅱ	医療的ケア I	
4	14:50 16:20		国家試験対策指導		ガイダンス・全学連携演習	医療的ケア I	

令和3年度 介護福祉科 時間割

2年 前期

		月	火	水	木	金	土
1	09:10 10:40	社会の理解Ⅲ	介護の基本Ⅱ	認知症の理解Ⅱ	介護過程Ⅱ	生活支援技術Ⅳ	
2	10:50 12:10	社会の理解Ⅱ	介護の基本Ⅱ	生活支援技術Ⅱ	こころとからだのしくみⅢ	生活支援技術Ⅳ	
3	13:10 14:40	障害の理解 I	医療的ケアⅡ	生活支援技術Ⅱ	情報機器演習	介護総合演習Ⅱ	
4	14:50 16:20		医療的ケアⅡ	国家試験対策指導	ガイダンス・全学連携演習	国家試験対策指導	

2年 後期

		月	火	水	木	金	土
1	09:10 10:40	介護の基本Ⅱ	生活支援技術Ⅳ	社会の理解Ⅲ	障害の理解Ⅱ	社会の理解Ⅲ	
2	10:50 12:10	介護の基本Ⅱ	生活支援技術Ⅳ	生活支援技術Ⅱ	障害の理解Ⅱ	介護過程Ⅲ	
3	13:10 14:40		介護過程Ⅲ	生活支援技術Ⅱ	国家試験対策指導	介護総合演習Ⅱ	
4	14:50 16:20				ガイダンス・全学連携演習	国家試験対策指導	

第 1 学 年

履修学年	第1学年
履修時期	前期
履修時間数	30時間
単位数	2単位
授業回数	15回
講師名	秀 亜紀子（専任講師）
授業形態	講義
備考	

1 学習目標

(1) 一般目標

生命とは何かを考え、人間関係の中で、生命の尊厳や人間の尊厳の在り方を理解し、合わせて、その中での自立・自律を考える。また、介護における尊厳の保持や自立支援が、人々の生活の中でどのように展開されているのか、法律や制度を合わせて理解する。

また、「人間」の理解を基礎として、人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解し、介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を養う学習とする。

(2) 行動目標

「人間」の理解を図り、人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性を説明できる。

介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を養う。

2 学習上の注意

(1) 1つ1つの講義を聴くことで全体の内容の理解に結びつくため、授業参加、授業態度については自身で留意すること。

(2) グループワーク等では、お互いに協力しあい自分の意見を述べること。

(3) 他者の意見にも耳を傾け、お互いに学びあう姿勢をもつこと。

(4) 提出物は、期日を厳守すること。

3 評価の方法及び基準

科目修得試験70%、提出物25%、平常点5%

4 使用テキスト・参考文献等

(1) 使用テキスト

最新 介護福祉士養成講座1 人間の理解 中央法規

(2) 参考文献等

ワークブック社会福祉援助技術演習①対人援助の基礎 ミネルヴァ書房

(3) その他

講師作成資料を随時配布

5 講義内容

回	講 義 内 容
1	第1章 人間の尊厳と自立 第1節 人間の尊厳と人権・福祉理念
2	第1節 人間の尊厳と人権・福祉理念 ・演習 「人権思想から人間の尊厳について学ぶ」
3	第2節 自立のあり方
4	・演習 「自他の価値観」
5	・演習 「価値の順位付け」
6	・演習 「社会福祉学と価値観」
7	第3章 介護実践におけるチームマネジメント 第1節 介護実践におけるチームマネジメントの意義
8	第2節 ケアを展開するためのチームマネジメント
9	第3節 人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント
10	第4節 組織の目標達成のためのチームマネジメント
11	・演習 「人間の尊厳」
12	・演習 「具体的な介護の実践」
13	【グループ発表】
14	(まとめ) 介護福祉士の職業倫理
15	科目修得試験

人間の理解Ⅱ

履修学年	第1学年
履修時期	後期
履修時間数	30時間
単位数	2単位
授業回数	15回
講師名	宮下 清子（専任講師）
授業形態	講義
備考	

1 学習目標

(1) 一般目標

- ①人が社会の中で生活していくためのコミュニケーションの意義を理解し、人間関係の形成が必要となってくることを考察する。
- ②介護場面において、利用者の方のさまざまな状況に合わせた基礎的なコミュニケーションのあり方を理解し、介護福祉士の役割を認識する。

(2) 行動目標

- ①人間関係の形成に向けて自己を振り返りながら自己理解の大切さを認識する。
- ②対人援助関係のための人間関係形成のプロセスを説明できる。
- ③利用者の方の状況に合わせたコミュニケーションのあり方について説明できる。
- ④障害や状況に合わせたコミュニケーション支援ツールの応用ができる。
- ⑤一人ひとりに合わせてコミュニケーションを図る際の環境を工夫できる。
- ⑥介護場面における記録の活用が説明できる。
- ⑦利用者の方に関わる各専門職間のチームワーク、家族や地域との連携について理解し、介護福祉士の役割を説明できる。

2 学習上の注意

- ①視聴覚教材等での事例等を通してコミュニケーションのあり方を考えるグループワークにも、自分自身のこととして捉えながら参加して欲しい。
- ②レポート提出等は提出期限を守ること。

3 評価の方法及び基準

- (1) 科目修得試験、課題提出状況、出席状況及び受講態度等を総合的に評価する。

4 使用テキスト・参考文献等

- (1) 使用テキスト
最新・介護福祉士養成講座① 人間の理解 中央法規出版
- (2) 参考文献等
授業中に紹介する。
- (3) その他
講師作成資料配付

5 講義内容

回	講 義 内 容
1	<p>はじめに</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間と人間の理解 <ul style="list-style-type: none"> ・ 人間らしさの始まり ・ 自分と他者の理解 ・ 援助者の自己覚知 ・ 発達心理学から見た人間関係 ・ 社会心理学から見た人間関係 ・ 対人認知と対人感情 ・ 集団との関わり ・ 人間関係とストレス 2. 対人関係におけるコミュニケーション <ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニケーションの概念 ・ コミュニケーションの基本構造 ・ コミュニケーションの手段 ・ 言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーションのあり方 3. 対人援助関係とコミュニケーション <ul style="list-style-type: none"> ・ 対人援助の基本となる人間関係とコミュニケーション ・ 人間関係の形成と発展 ・ 対人援助における基本的態度 ・ 援助的人間関係の形成とバイステックの7つの原則 4. 組織におけるコミュニケーション <ul style="list-style-type: none"> ・ 組織の条件とコミュニケーションの特徴 ・ 組織における情報の流れ ・ 組織において求められるコミュニケーションのあり方
1 5	科目修得試験

社会の理解 I

履修学年	第1学年
履修時期	前期
履修時間数	30時間
単位数	2単位
授業回数	15回
講師名	川野 竜太郎 (専任講師)
授業形態	講義
備考	

1 学習目標

(1) 一般目標

個人・家族・地域・社会のしくみと、地域における生活の構造について学び、生活と社会のかわりや自助・互助・共助・公助の関係について理解する。

地域共生社会や地域包括ケアシステムの基本的な考え方としくみ、その実現のための制度や施策を理解する。

(2) 行動目標

従来、個人や家族間で行われてきた「支援」を、現在は「社会」が中心になって行っている理由を自分なりに整理し、その理由を説明できる。

生活上の安全・安心・健康を確保するために、医療や介護のみならず、福祉サービスを含めた様々な生活支援サービスが、日常生活の場で適切に提供できる体制づくりが行えるようになる。

2 学習上の注意

(1) 小プリント等を利用し、講義内容の要点整理と確認を行う。

(2) 新聞記事や視聴覚教材を利用し、身近な福祉問題を提起するなかで、自己学習や積極的な行動に移れるような意識づけを図っていく。

3 評価の方法及び基準

(1) 科目修得試験

(2) 出席状況及び受講態度

4 使用テキスト・参考文献等

(1) 使用テキスト

1. 最新・介護福祉士養成講座 2

= 中央法規出版

2. 「福祉小六法 2020」

= 中央法規出版

(2) 参考文献等

① 「国民の福祉の動向」

= 財団法人 厚生統計協会

② 「宮崎県の福祉と保健 (令和元年度版)」

= 宮崎県福祉保健部

(3) その他

① 講師作成資料配付

5 講義内容

回	講 義 内 容
1	社会福祉法制の構造
2	介護福祉士資格について
3	生活を幅広くとらえる
	(1) 「人間」をとらえる複合的視点
	(2) 複合的視点に関する代表的な学説
	(3) 「社会生活」のメカニズム
4	生活の基本機能
	(1) 生活の多様性をとらえる視点
	(2) 「家族」と「家庭」の違い
	(3) 家庭機能の特徴
5	ライフスタイルの変化
	(1) 生活と働き方の変化
	(2) 少子高齢化と健康寿命
6	家族の機能と役割
	(1) 家族の概念とその変容
	(2) 家族の構造や形態
7	(3) 家族の機能とその変化
	(4) 家族観の多様化
8	社会・組織の機能と役割
	(1) 社会・組織の概念
	(2) 社会・組織の機能と役割
	(3) グループ支援、組織化、エンパワメント
9	地域・地域社会
	(1) 地域・地域社会の概念
	(2) 産業化・都市化・過疎化
	(3) 自助・互助・共助・公助
10	地域社会における生活支援
	(1) 地域社会の変化
	(2) 地域の集団、組織による生活支援
11	地域福祉の発展
	(1) 地域福祉の理念
	(2) 地域福祉の歴史的展開
12	(3) 地域福祉の充実
	(4) 災害と地域社会
13	地域共生社会
	(1) 地域共生社会をめざす社会的背景
	(2) 地域共生社会の理念
	(3) 地域共生社会の実現に向けた取り組み
14	地域包括ケア
	(1) 地域包括ケアの理念
	(2) 地域包括ケアシステム
15	科目修得試験

履修学年	第1学年
履修時期	前期・後期
履修時間数	60時間
単位数	4単位
授業回数	30回
講師名	新名 隆宏（専任講師）
授業形態	講義
備考	

1 学習目標

(1) 一般目標

- ① 社会保障の目的、意義を正しく理解する。
- ② 社会保障の歴史をその時代背景、社会情勢等を含めて理解する。

(2) 行動目標

- ① 各種社会保障制度を分類、整理し、説明できる。
- ② 各種社会保障制度に関する法律やサービス等を整理し、それぞれについて説明できる。
- ③ 将来福祉従事者としての実践へ活用できる。

2 学習上の注意

- (1) 社会保障制度は、社会情勢と関わりが深いので、日々のニュースや新聞記事等を注意深く見ておくこと。
- (2) 講義中に配布する資料をしっかりと保管、管理しておくこと。

3 評価の方法及び基準

以下の内容で総合的に評価する。

- ・科目修得試験70% ・受講状況（演習含む）20% ・ノート10%

4 使用テキスト・参考文献等

(1) 使用テキスト

- ① 最新 介護福祉士養成講座2 「社会の理解」（中央法規出版）
- ② 福祉小六法（中央法規出版）

(2) 参考文献等

- ① 椋野美智子・田中耕太郎著「はじめての社会保障 福祉を学ぶ人へ」（有斐閣）

(3) その他

- ① 講師作成資料をその都度配布する。

5 講義内容

回	講 義 内 容
1	社会保障制度の概念
2	社会保障制度と社会福祉①
3	社会保障制度と社会福祉①
4	社会保障の範囲
5	社会保障制度の役割と意義
6	社会保障の理念及び考え方
7	社会保障制度の歴史（救貧法の誕生と社会保険の誕生）
8	社会保障制度の歴史（大戦前から戦中、戦後の歴史）
9	社会保障制度の歴史（高度経済成長期から現代まで）
10	社会保障制度の国際的動向
11	社会福祉法の意義と内容
12	社会福祉六法の意義と内容
13	社会福祉基礎構造改革の理解①
14	社会福祉基礎構造改革の理解②
15	科目修得試験
16	日本における年金制度①
17	日本における年金制度②
18	日本における年金制度③
19	日本における年金制度④
20	日本における医療保険制度①
21	日本における医療保険制度②
22	日本における医療保険制度③
23	日本における医療保険制度④
24	日本における労働保険①
25	日本における労働保険②
26	社会扶助制度の意義と内容
27	社会保険制度と民間保険制度
28	少子高齢化と社会保障制度
29	今後の社会保障制度について
30	科目修得試験

履修学年	第1学年
履修時期	前期・後期
履修時間数	90時間
単位数	6単位
授業回数	45回
講師名	千代森 倍世（専任講師）
授業形態	講義
備考	

1 学習目標

(1) 一般目標

介護を必要とする人の生活を支援する専門職として、基本となる考え方を学ぶ授業である。

「介護」とは何か。介護福祉士の役割は何かを理解する。また、「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を生活の視点からとらえることを理解することを目標とする。

(2) 行動目標

- ①介護の意義と役割及び専門性について、ノーマライゼーションやICF、介護の倫理などを通して理解する。
- ②介護を必要とする人を「生活する人」として受けとめ、一人ひとりの利用者の意向や生き方、生活習慣などその人らしさ（個別性）を大切にすることを学ぶ。
- ③尊厳を守る介護、自立に向けた介護について理解を深めることができる。
- ④介護福祉士を取り巻く状況や背景を、我が国の介護の歴史を通して理解し、現在の介護福祉士の担う社会的役割を認識できる。
- ⑤介護を必要とする人の個別性や多様性、複雑性が理解でき、自立に向けた介護を実践するために、自立の意味や自己決定、ICFの考え方、介護予防などについての理解を深めることができる。

2 学習上の注意

- (1) 介護福祉士にとって、コミュニケーション技術は不可欠であるためグループワークでの演習は積極的に参加していく。
- (2) 新聞等をとおして、社会情勢に目を向け自身で考えることを大切にしてほしい。
- (3) レポート課題に関しては、参考文献等を検索し主体的に取り組み提出期日を必ず守ること。

3 評価の方法及び基準

- (1) 前期、後期の科目修得試験(80%)、レポート内容・提出状況(20%)

4 使用テキスト・参考文献等

- (1) 最新 介護福祉士養成講座 介護の基本 I・II 中央法規

- (2) 参考文献

講師作成資料を随時配布

- (3) その他

授業の中で視聴覚教材を随時使用

5 講義内容

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション <u>介護福祉士とは</u> ①介護の成り立ち	●授業の概要 この授業で何を学ぶか、授業の進め方や課題、評価等について理解できる。 ●専門職による「介護」が誕生した経緯や社会的背景を理解する
2	<u>介護福祉士とは</u> ①介護の成り立ち	●専門職による「介護」が誕生した経緯や社会的背景を理解する
3	<u>介護福祉士とは</u> ②介護の概念の変遷	●介護に関連する施策の概要を理解する
4	<u>介護福祉士とは</u> ②介護の概念の変遷	●介護に関連する施策の概要を理解する
5	<u>介護福祉士とは</u> ②介護の概念の変遷	●介護福祉士の業の変遷について理解する
6	<u>介護福祉士とは</u> ②介護の概念の変遷	●介護福祉士の業の変遷について理解する
7	<u>介護福祉士とは</u> ③介護福祉の基本理念	●介護福祉の基本となる理念を理解する ●尊厳を支える介護にかかわるノーマライゼーション、QOLなどの考え方を理解する
8	<u>介護福祉士とは</u> ③介護福祉の基本理念	●介護福祉の基本となる理念を理解する ●尊厳を支える介護にかかわるノーマライゼーション、QOLなどの考え方を理解する
9	<u>介護福祉士とは</u> ③介護福祉の基本理念	●自立を支える介護にかかわる自己決定や利用者主体について理解する
10	<u>介護福祉士とは</u> ③介護福祉の基本理念	●自立を支える介護にかかわる自己決定や利用者主体について理解する
11	<u>介護福祉を必要とする人の理解</u> ①私たちの生活の理解	●私たちの生活を構成する重要な要素について理解する ●私たちにとって、生活とはどのような特性をもっているかを理解する。

回	テーマ	内容
13	<u>介護福祉を必要とする人の理解</u> ②介護福祉を必要とする人たちの暮らし	<ul style="list-style-type: none"> ●介護福祉を必要とする人たちの多様性を学ぶ ●介護福祉職のかかわる高齢者・障害者の事例を学ぶ
14	<u>介護福祉を必要とする人の理解</u> ②介護福祉を必要とする人たちの暮らし	<ul style="list-style-type: none"> ●介護福祉を必要とする人たちの多様性を学ぶ ●介護福祉職のかかわる高齢者・障害者の事例を学ぶ
15	<u>介護福祉士の役割と機能</u> ①介護福祉士の活動の場と役割	<ul style="list-style-type: none"> ●地域や施設・在宅の場における介護福祉士の役割と機能を理解する
16	<u>介護福祉士の役割と機能</u> ①介護福祉士の活動の場と役割	<ul style="list-style-type: none"> ●地域や施設・在宅の場における介護福祉士の役割と機能を理解する
17	<u>介護福祉士の役割と機能</u> ①介護福祉士の活動の場と役割	<ul style="list-style-type: none"> ●介護予防や医療的ケアなど新たな介護福祉士の役割と機能を理解する
18	<u>介護福祉士の役割と機能</u> ①介護福祉士の活動の場と役割	<ul style="list-style-type: none"> ●介護予防や医療的ケアなど新たな介護福祉士の役割と機能を理解する
19	<u>介護福祉士の役割と機能</u> ①介護福祉士の活動の場と役割	<ul style="list-style-type: none"> ●看取り、災害時などの場における介護福祉士の役割と機能を理解する
20	<u>介護福祉士の役割と機能</u> ①介護福祉士の活動の場と役割	<ul style="list-style-type: none"> ●看取り、災害時などの場における介護福祉士の役割と機能を理解する
21	<u>介護福祉士の倫理</u> ①介護福祉士の倫理	<ul style="list-style-type: none"> ●介護にたずさわる人がもつべき職業倫理を学ぶ ●普遍的な倫理判断の視点を学び、それがさまざまな介護の場面でどういせるかを考える
22	<u>介護福祉士の倫理</u> ①介護福祉士の倫理	<ul style="list-style-type: none"> ●介護にたずさわる人がもつべき職業倫理を学ぶ ●普遍的な倫理判断の視点を学び、それがさまざまな介護の場面でどういせるかを考える。
23	科目修得試験	

回	テーマ	内容
24	介護実践の振り返り	●介護実習 I の実践を通して、利用者の方との関わりを振り返り、課題を考える。
25	介護実践の振り返り	●介護実習 I の実践を通して、利用者の方との関わりを振り返り、課題を考える。
26	<u>介護福祉士の倫理</u> ②日本介護福祉士会の倫理綱領	●日本介護福祉士会の倫理綱領と行動規範を例に、介護福祉の専門性と倫理を理解する
27	<u>介護福祉士の倫理</u> ②日本介護福祉士会の倫理綱領	●日本介護福祉士会の倫理綱領と行動規範を例に、介護福祉の専門性と倫理を理解する
28	<u>介護福祉士の倫理</u>	●介護福祉士に求められる専門職としての態度を形成する
29	<u>介護福祉士の倫理</u>	●介護福祉士に求められる専門職としての態度を形成する
30	<u>自立に向けた介護福祉のあり方</u> ①自立支援の考え方	●自立支援の具体的な考え方を理解する。 ●利用者の意思決定を支える方法について理解する。
31	<u>自立に向けた介護福祉のあり方</u> ①自立支援の考え方	●自立支援の具体的な考え方を理解する。 ●利用者の意思決定を支える方法について理解する。
32	<u>自立に向けた介護福祉のあり方</u> ①自立支援の考え方 ②ICFの考え方	●自立支援におけるエンパワメントとICFの意義について理解する
33	<u>自立に向けた介護福祉のあり方</u> ①自立支援の考え方 ②ICFの考え方	●自立支援におけるエンパワメントとICFの意義について理解する
34	<u>自立に向けた介護福祉のあり方</u> ②ICFの考え方	●ICFやストレングスの視点を介護の実践に応用する視点をもつ
35	<u>自立に向けた介護福祉のあり方</u> ②ICFの考え方	●ICFやストレングスの視点を介護の実践に応用する視点をもつ

回	テーマ	テーマ
36	<u>自立に向けた介護福祉のあり方</u> ③自立支援とリハビリテーション	<ul style="list-style-type: none"> ●自立支援とリハビリテーションの基本的な考え方について理解する ●リハビリテーションのなかでの介護福祉士の役割について理解する
37	<u>自立に向けた介護福祉のあり方</u> ③自立支援とリハビリテーション	<ul style="list-style-type: none"> ●自立支援とリハビリテーションの基本的な考え方について理解する ●リハビリテーションのなかでの介護福祉士の役割について理解する
38	<u>協働する多職種の機能と役割</u> 保健・医療・福祉職の役割と機能	<ul style="list-style-type: none"> ●介護福祉職と協働するさまざまな職種について学ぶ ●他職種協働にかかわる専門職の役割と機能を理解する
40	<u>自立に向けた介護福祉のあり方</u> ④自立支援と介護予防	<ul style="list-style-type: none"> ●自立支援と介護予防の基本的な考え方を理解する ●介護予防のなかで介護福祉士の役割を理解する
41	<u>自立に向けた介護福祉のあり方</u> ④自立支援と介護予防	<ul style="list-style-type: none"> ●自立支援と介護予防の基本的な考え方を理解する ●介護予防のなかで介護福祉士の役割を理解する
42	介護福祉の専門職として	<ul style="list-style-type: none"> ●介護福祉の専門職としての能力と態度を養う
43	まとめ	国家試験をもとに、これまでの履修した内容について振り返る。
44	まとめ	国家試験をもとに、これまでの履修した内容について振り返る。
45	科目修得試験	

履修学年	第1学年
履修時期	前期
履修時間数	30時間
単位数	2単位
授業回数	15回
講師名	秀 亜紀子（専任講師）
授業形態	演習
備考	

1 学習目標

(1) 一般目標

介護現場で必要とされる人間関係形成のための「コミュニケーション技術」を理解することにより、利用者に関わる人たちと利用者の関係調整能力を習得する。またコミュニケーション障害のある利用者を理解する視点を学び、介護過程を通して障害の程度や種別による生活支障状況を把握することにより、適切なコミュニケーションの実践が可能となることを理解する。また、日常生活の中で利用者の心にゆとりが得られるコミュニケーション技術の習得と介護実践に必要とされる情報を関係者に伝達する技術、個人情報の扱い方や情報の共有、管理の仕方を理解し、実践にうつせるようになる。

(2) 行動目標

- ①介護の視点から人間関係を成立させるためには信頼関係が重要であることを理解する。
- ②利用者や介護者の心に「ゆとり」を持たせストレス軽減を目指すコミュニケーションを実践するために、レクリエーションの視点を持ち、実践に活かすことができる。
- ③介護現場で協働する関係者と情報を共有するため、記録や報告書を作成する意味を理解し、介護現場に活かすことができる。
- ④チーム力を高めるコミュニケーションの方法を学び、実践につなげることができる。

2 学習上の注意

グループワーク・演習に目的意識を持って参加し、コミュニケーションを体験的に学ぶ。

3 評価の方法及び基準

科目修得試験60%、レポート20%、コラージュ10%、平常点10%

4 使用テキスト・参考文献等

(1) 使用テキスト

最新 介護福祉士養成講座5 コミュニケーション技術 中央法規

5 講義内容

回	講 義 内 容
1	第1章 介護におけるコミュニケーションの基本 第1節 介護におけるコミュニケーションとは 第2節 介護におけるコミュニケーションの対象
2	第3節 援助関係とコミュニケーション
3	第2章 コミュニケーションの基本技術 第1節 コミュニケーション態度に関する基本技術 ・演習 「話を聴く態度」
4	第2節 言語・非言語・準言語コミュニケーションの基本 ・演習 「感情をあらわす言葉」
5	第3節 目的別のコミュニケーション技術 ・演習 「リフレーミングのトレーニング」
6	第4節 集団におけるコミュニケーション技術 ・演習 「グループで思い出話をする体験」
7	第3章 対象者の特性に応じたコミュニケーション 第1節 コミュニケーション障害への対応の基本 (第2節はレポート課題)
8	第4章 家族とのコミュニケーション 第1節 家族との関係づくり 第2節 家族への助言・指導・調整
9	第3節 家族関係と介護ストレスへの対応
10	第5章 介護におけるチームのコミュニケーション 第1節 チームのコミュニケーションとは
11	第2節 報告・連絡・相談の技術
12	第3節 記録の技術 第4節 会議・議事進行・説明の技術

回	講 義 内 容
1 3	第5節 事例検討に関する技術 第6節 情報の活用と管理のための技術
1 4	様々な手法を用いたコミュニケーション ・演習 「コラージュ制作」
1 5	科目修得試験

履修学年	第1学年
履修時期	後期
履修時間数	15時間
単位数	0.5単位
授業回数	8回
講師名	田中 陽子（非常勤講師）
授業形態	演習
備考	

1 学習目標

(1) 一般目標

介護場面において、利用者・家族に対して適切な支援を行うためには、利用者の状態を理解し、それに応じたコミュニケーションが必要となる。

この授業では、感覚機能が低下している人（主に聴覚障害者）との具体的なコミュニケーション技法の実際について学び、習得する。

(2) 行動目標

①感覚機能（聴覚器）が低下することでおこる障害や生活上の困難等を正しく理解し、手話の演習を通して「観る力」「表現する力」を養い、コミュニケーション能力を高めていく。

また、様々な手段を工夫して伝え合い、会話ができるという姿勢を身につける。

②感覚機能が低下している利用者（主に聴覚障害者）の状態について理解し、それに応じたコミュニケーション技法について学び、習得する。

2 学習上の注意

(1) 手話の習得は繰り返し練習することが基本となるため、毎回次の授業までに復習をしておくこと。

(2) 手話は手の動きだけではなく、表情や体の向きなども含めた「言語」であることを常に意識して授業に臨んでほしい。

3 評価の方法及び基準

①必要な知識・技術を筆記及び実技試験により評価する。

②出席状況及び受講態度を加味する。

4 使用テキスト・参考文献等

(1) 使用テキスト

新手話教室 厚生労働省手話奉仕員養成講座（入門課程対応）全国手話研修センター発行

(2) 参考文献

①わたしたちの手話（1）～（10） 全日本ろうあ連盟発行

②日本語・手話辞典 全日本ろうあ連盟発行

③聴覚障害児・者支援の基本と実践 中央法規出版

(3) その他

講師作成資料

5 講義内容

回	講 義 内 容
1	介護場面における利用者・家族とのコミュニケーションの基本 感覚機能（聴覚器）が低下している人とのコミュニケーション ○聴覚障害者の基礎知識 ○コミュニケーション方法の留意点
2	介護場面における利用者・家族とのコミュニケーションの基本 ○物の形や動作の模倣 ○身振り表現での伝達 ○「自己紹介①」 ・挨拶 ・名前の表現
3	利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技法の実際 ○「自己紹介②」 ・数字 ・年齢 ・誕生日の表現
4	○「自己紹介③」 ・家族紹介の表現
5	○「自己紹介④」 ・趣味に関わる表現
6	○自己紹介のまとめ
7	○その他 ・介護場面の手話表現 ○総合練習
8	科目修得試験

履修学年	第1学年
履修時期	前期
履修時間数	15時間
単位数	0.5単位
授業回数	8回
講師名	押川 恵子（非常勤講師）
授業形態	演習
備考	

1 学習目標

(1) 一般目標

- ①点字が使われている範囲が広がっている状況を理解するとともに、点字は、視覚障害者が情報収集の手段として用いる文字であることを知る。
- ②視覚障害者にとっては、コミュニケーションの手段の一つとして点字が大きな役割を担っていることを知る。
- ③点字を学ぶことをとおして、視覚障害者への理解を深めるとともに、視覚障害者と自然にふれあい意志の伝達が確実にできるようになる。
- ④視覚障害者の文字生活を正しく理解し、点字の働きをしっかりと把握する。

(2) 行動目標

- ①「点字一覧表」を使用して、点字のかな（五十音）・数字・アルファベット（二十六文字）を書くことができる。
- ②「点字一覧表」を使用して、点字で書かれたかな・数字・アルファベットを読むことができる。
- ③視覚障害者の情報収集の手助けができるようになる。
- ④日常生活のなかで、視覚障害者が必要としている援助の内容を知り、手助けする仕方を身につける。

2 学習上の注意

- (1) 演習に必要な点字器・点筆は毎時間忘れずに持参すること。
- (2) 演習時間に課せられた点字の読み書き問題はその時間に完成させて提出すること。
- (3) 演習時間以外に自分で計画的に点字の読み書きの練習をすること。

3 評価の方法及び基準

- (1) 科目試験については学科目履修規程第6条の規定に基づく。
- (2) 演習テストとして、墨字文を点字で書くこと、点字文を墨字文に直すことの技能及び基礎的知識を評価する。
- (3) 演習時間に課せられた「練習問題」の提出状況を見る。

4 使用テキスト・参考文献等

(1) 使用テキスト

- ・「初めての点訳」（第3版）＝全国視覚障害者情報提供施設協会

(2) 参考文献等

- ・「点訳のてびき」（第4版）＝全国視覚障害者情報提供施設協会
- ・「点字表記辞典」（改訂新版）＝視覚障害者支援センター

(3) その他

- ・毎時間配布の「点字練習プリント」

5 講義内容

回	テーマ	内容	講義方法
1	<u>介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション</u> 視覚障害者をどう理解するか考えてみよう	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚障害者の現状を知る ・視覚障害者のコミュニケーション手段について 	(演習) <ul style="list-style-type: none"> ・説明 ・各自書出 ・協議
2	<u>介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション</u> 視覚障害者の文字としての点字を知る	<ul style="list-style-type: none"> ・点字を使う視覚障害者の生活 ・点字の構成を知る ・点字の清音・濁音・拗音を書いてみる 	(演習) <ul style="list-style-type: none"> ・点字器と点筆を使って各自で点字用紙に書く
3	<u>介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション</u> 簡単な点字の語句を書いてみよう	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な仮名遣いを理解する ・日常的な単語を書く ・自分で書いた点字を読んでみる 	(演習) <ul style="list-style-type: none"> ・点字用紙に書き込む
4	<u>介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション</u> 点字で表す数字やアルファベットを調べてみよう	<ul style="list-style-type: none"> ・電話番号や住所の表記をする ・アルファベットによる略語や略称の書き方を理解し、実際に書いてみる 	(演習) <ul style="list-style-type: none"> ・点字用紙に書き込む
5	<u>介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション</u> 短い文章を書いてみよう	<ul style="list-style-type: none"> ・氏名や生年月日を書く ・記号類を使う 	(演習) <ul style="list-style-type: none"> ・点字用紙を使用して文章を書く
6	<u>介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション</u> 点字で自己紹介文を書いてみよう	<ul style="list-style-type: none"> ・あらかじめ準備してきた自己紹介の文を書く ・家族・趣味などを加える 	(演習) <ul style="list-style-type: none"> ・点字用紙を使用 ・隣席者と相互に読み合う
7	<u>介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション</u> いろいろな案内文や手紙を書いてみよう	<ul style="list-style-type: none"> ・宛先、差出人、日付などの書き方 ・「点字用郵便」について理解する 	(演習) <ul style="list-style-type: none"> ・例文を転写する
8	科目修得試験	<ul style="list-style-type: none"> ・点字が使われている場所や場面が理解できたか ・点字の読み書きの基本が習得できたか 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペーパーテスト ・点字による課題文の読み書き

履修学年	第1学年
履修時期	前期
履修時間数	30時間
単位数	2単位
授業回数	15回
講師名	田中 龍子（専任講師）
授業形態	講義
備考	

1 学習目標

(1) 一般目標

- ①生活の定義、生活形成のプロセス、生活経営、生活史等、生活にかかわる基本知識を学び生活を理解する。
- ②生活支援の考え方を理解する。

(2) 行動目標

- ①生活について基本知識を説明できる。
- ②生活支援と介護予防、他職種との協働を列記できる。
- ③ ICFの視点にもとづく生活支援について理解できる。
- ④生活支援と福祉用具の関連について理解できる。

2 学習上の注意

目的意識を持って主体的に積極的に、講義に参加すること。

3 評価の方法及び基準

科目修得試験70%、レポート課題20%、受講状況10%

4 使用テキスト・参考文献等

(1) 使用テキスト

最新 生活支援技術 I 6 (中央法規)

(2) 参考文献等

必要に応じ提示する。

(3) その他

講師準備資料

レポート課題

5 講義内容

回	テーマ	講義内容
1	オリエンテーション この科目で学ぶこと	①導入～シラバスに添い、説明 ②自己紹介 ③あなたにとって生活とは何か。 ④演習1-1 生活を理解する ⑤他人の生活を知り、思った事を発表する
2	生活支援の基本的な考え方	①生活支援とは何か。 ②生活支援のあり方 ③ストレングスとは何か。 ③について個人・グループワーク ④③について発表
3	生活支援の基本的な考え方	ライフサイクルと生活の豊かさ ①ライフサイクルとは ②ビデオ視聴「こころの遺伝子」 ③②についての感想を各自に聞く
4	生活支援の基本的な考え方	生活支援のポイント ①ADLについて調べる ②潜在能力についてグループワーク
5	生活支援の基本的な考え方	①ICFについて ②ビデオ「介護の新しい視点」感想を聞く ③ICFを介護に生かす
6	生活支援の基本的な考え方	①ICFの視点で利用者を見る 事例より ▼山田さん ▼Uさん ▼Sさん ▼Nさん ▼Aさん
7	生活支援の基本的な考え方	事例より ▼Uさん ▼Sさん ▼Nさん ▼Aさん
8	生活支援と介護予防	①チームとは何か。何故、介護福祉士にとってチームアプローチは必要か。グループワーク ②チームアプローチを行う上での留意点
9	生活支援と介護予防	①その人らしさの理解 ②ビデオ
10	生活支援と福祉用具の活用	①福祉用具とは何か。 ②介護保険法による福祉用具サービスと障害者総合支援法における福祉用具サービスについてグループ学習
11	生活支援と福祉用具の活用	①介護保険法による福祉用具サービスと障害者総合支援法における福祉用具サービスについてグループ学習
12	生活支援と福祉用具の活用	①福祉用具について発表 ②適切な福祉用具を選ぶための視点
13	生活支援と福祉用具の活用	①被災地で活動する際の心構え ②ビデオ
14	生活支援と福祉用具の活用	①災害時における生活支援
15	科目修得試験	

履修学年	第1学年
履修時期	前期・後期
履修時間数	90時間
単位数	3単位
授業回数	45回
講師名	千代森 倍世（専任講師）
授業形態	演習
備考	

1 学習目標

(1) 一般目標

介護を必要とする人がどのような状態であっても、生きていることを実感でき、その人らしく生きのための生活環境づくりをすることで、生活の楽しさや生活の支障の解決についてともに分かち合うことができることを理解する。できるだけなじみのある環境で日常生活が送れるよう、一人ひとりの生活している状態を的確に把握し、自立支援に資する介護を他の職種と連携し、計画的に提供することを理解する。利用者が生活の中で求めていく幸せとは何かを的確に捉える力と、個別性のある自立・自律や社会参加にむけた生活支援ができるようになることについて学ぶ。

(2) 行動目標

- ① 1日の流れで捉えた生活の場면을基礎とし、生活の低下が予防できる支援技術を実践できる。
- ② 身じたく、移動、食事、入浴・清潔保持、排泄、家事、睡眠の基本的な生活様式を学び、それらに不自由を感じる利用者の介護などについて、あらゆる介護場面に共通する基礎的な介護の知識・技術を習得する。
- ③ 利用者の生活活動を残存能力・潜在能力の視点で把握し、各々の生活場面における支援技術を学生が適切に理解し実践できる。
- ④ ICFの概念に基づいたアセスメントを行うことで、個々の利用者の生活活動の違いや気づいた変化をもとに系統的に演習できる。
- ⑤ 利用者とその家族の状況について共感的に理解し、個別性のある自立・自律に向けた生活支援技術を習得する。
- ⑥ 生活支援をおこなっていく中で、感染予防、腰痛予防、ボディメカニクスなど、セイフティマネジメントを実施できる。
- ⑦ 利用者の自立支援と介護者の身体的負担を最小限にするための工夫や福祉用具の活用ができる。
- ⑧ 家族への配慮と看取りを厳粛に受け止める生活支援技術を提供できるよう、終末期の介護を学ぶ。

2 学習上の注意

- (1) 疑問や問題意識を持って講義や演習に取り組むことにより、思考過程の根拠・理由づけが明確になることを知り、講義や演習の中での自分の疑問を大切に取扱いしていくこととする。
- (2) 他者に対し真摯な態度で向き合うことを準備から片付けまで演習を通して実践する。

3 評価の方法及び基準

前期、後期の科目修得試験(60%)、実技試験(30%)、レポート内容・提出状況(10%)

4 使用テキスト・参考文献等

(1) 使用テキスト

最新・介護福祉士養成講座 生活支援技術Ⅰ (中央法規)

最新・介護福祉士養成講座 生活支援技術Ⅱ (中央法規)

(2) 参考文献等

適宜、プリント配布

(3) その他

5 講義内容

回	テーマ	内容
1 2	<u>ボディメカニクス</u> <u>自立に向けた移動の</u> <u>介護</u> ①自立した移動とは	<ul style="list-style-type: none"> ●授業の概要と進め方について ●ボディメカニクスの原則を理解する ●自立した移動のあり方について理解する
3 4	<u>自立に向けた移動の</u> <u>介護</u> ②自立に向けた移動・移乗の介護 ③移動の介護における多職種との連携	<ul style="list-style-type: none"> ●介護の原則にのっとり、利用者が安心して活動・運動するための基本技術を学ぶ ●自立に向けた移動の支援に向けて多職種との連携する意味を理解する
5 6	<u>休息・睡眠の介護</u> ①休息・睡眠とは ②休息・睡眠の介護	<ul style="list-style-type: none"> ●日常生活における休息・睡眠の重要性について理解する ●安眠をうながすための基本的な支援方法を理解する ●休息・睡眠環境を整える方法(ベッドメイキング等)を理解し、根拠を説明できる力を身につける
7 8	<u>休息・睡眠の介護</u> ②休息・睡眠の介護 ③休息・睡眠の介護における多職種との連携	<ul style="list-style-type: none"> ●利用者のよりよい生活に向けて、休息・睡眠の介護における多職種連携の必要性について理解し、役割を学ぶ。
9 10	<u>自立に向けた身じたくの介護</u> ①自立した身じたくとは ②自立に向けた身じたくの介護	<ul style="list-style-type: none"> ●生活習慣としての、身じたくの意義と目的について理解する ●利用者の生活習慣を知り、状態を観察して、利用者に適した介護技術が展開できる(口腔ケア・衣服の着脱の介助を除く) ●利用者の自立に向けた身じたくの支援のために、多職種と連携する必要性と連携のあり方を学ぶ
11 12	<u>自立に向けた身じたくの介護</u> ②自立に向けた身じたくの介護 ③身じたくの介護における多職種との連携	<ul style="list-style-type: none"> ●利用者の生活習慣を知り、状態を観察して、利用者に適した介護技術が展開できる(衣服のもつ役割と衣服着脱の視点・自立度が高い利用者の衣服着脱介助の実際)

回	テーマ	内容
13 14	<u>自立に向けた身じたくの介護</u> ②自立に向けた身じたくの介護	●利用者の生活習慣を知り、状態を観察して、利用者に適した介護技術が展開できる (全般にわたり介助が必要な場合の衣服着脱介助の実際)
15 16	<u>自立に向けた食事の介護</u> ①食事の意義と目的 ②自立に向けた食事の介護	●自立した食事のあり方について理解する ●自立した食事の一連の流れを理解する ●利用者の持っている機能を活用し、自立に向けた食事の介護の基本的な技術を習得する。
17 18	<u>自立に向けた食事の介護</u> ②自立に向けた食事の介護 ③食事の介護における多職種との連携	●利用者の尊厳を遵守した食事の介護の留意点を習得する ●口腔ケアの意義を理解し介助の実際が展開できる ●利用者の自立に向けた食事の支援のために、多職種と連携する必要性と連携のあり方を学ぶ
19 20	<u>自立に向けた入浴・清潔の介護</u> ①入浴・清潔の意義と目的 ②自立に向けた入浴・清潔保持の介護	●入浴・清潔の目的は何か。清潔の保持が生活にどのような影響と意義を持つのかを理解する ●利用者主体とした安心、安全、安楽な入浴およびその他の清潔保持の技法について学ぶ (清拭および部分浴)
21 22	<u>自立に向けた排泄の介護</u> ①自立した排泄とは ②自立に向けた排泄の介護	●自立した排泄について理解する ●利用者の尊厳を遵守した排泄介護の留意点と利用者を観察する視点を学ぶ
23	科目修得試験	
24 25	<u>自立に向けた入浴・清潔の介護</u> ②自立に向けた入浴・清潔保持の介護	●利用者主体とした安心、安全、安楽な入浴およびその他の清潔保持の技法について学ぶ (入浴の介助)
26 27	<u>自立に向けた入浴・清潔の介護</u> ②自立に向けた入浴・清潔保持の介護	●利用者主体とした安心、安全、安楽な入浴およびその他の清潔保持の技法について学ぶ (洗髪の介助)
28 29	<u>自立に向けた入浴・清潔の介護</u> ③入浴・清潔保持の介護における多職種との連携	●入浴・清潔保持にかかわる多職種連携の必要性について理解する ●入浴・清潔保持にかかわる多職種連携の役割と連携について理解する

回	テーマ	内容
30 31	<u>自立に向けた排泄の介護</u> ②自立に向けた排泄の介護	●介護を必要とする利用者の心身の状態・状況に応じた適切な排泄方法を学ぶ
32	<u>自立に向けた排泄の介護</u> ③排泄の介護における多職種との連携	●利用者のよりよい生活に向けて、施設の介護における多職種連携の必要性について理解する
33 34	<u>自立に向けた移動の介護</u> ②自立に向けた移動・移乗の介護	●安全で的確な移乗の技法を習得する。 ●移動・移乗のための環境と整備について学ぶ
35 36	人生の最終段階における介護	●人生の最終段階のとらえ方を学び、人生の最終段階の介護の考え方と介護福祉職の役割を学ぶ
37 38 39 40	介護者への指導	●それぞれの内容をロールプレイングにて発表
41 42	国家試験に向けて	過去の国家試験問題に取り組む
43	実技試験に向けて	実技試験に向けた対策
44	実技試験	国家試験に準じた実技試験
45	科目修得試験	

介 護 過 程 I

履修学年	第1学年
履修時期	前期・後期
履修時間数	60時間
単位数	2単位
授業回数	30回
講師名	田中 龍子（専任講師）
授業形態	演習
備考	

1 学習目標

(1) 一般目標

介護は介護者が利用者にとって最善の「介護過程」を考えた上で成り立っているといえる。支援を提供する対象が誰であれ、どのような生活場面であれ、利用者の課題を理解し目標を定め、利用者のニーズに即応した介護をおこなうことが大事である。

(2) 行動目標

- ①介護過程とは個々のニーズを的確に把握し、計画的に介護を実践・評価することの意味を理解できる。
- ②今までに学習した知識や技術は、介護過程の中で利用者の能力に合わせて応用するものであることを理解できる。
- ③介護の方法には手順と意味と理由があり、それを説明できなければいけないことを理解できる。
- ④利用者のニーズにあった介護計画を立案できるようになる。
- ⑤「ケアプラン」は、介護保険に基づく介護サービスを提供するためのサービス利用計画であり、「介護過程」は利用者に適切な介護を実践するための思考過程であることを理解できる。

2 学習上の注意

- (1) 1つ1つの講義を聴くことで全体の内容の理解に結びつくため、授業参加、授業態度については自身で留意すること。
- (2) 個人学習・グループ学習が大切となるため、主体的に取り組むこと。
- (3) レポート課題に関しては、参考文献等を検索し主体的に取り組む提出期日を必ず守ること。

3 評価の方法及び基準

- (1) 前期 科目修得試験60% レポート課題30% 受講状況10%
- (2) 後期 科目修得試験50% レポート課題40% 受講状況10%

4 使用テキスト・参考文献等

- (1) 使用テキスト
最新 介護福祉士養成講座9 介護過程
- (2) 参考文献
講師作成資料を随時配布
- (3) その他
ペーパーシミュレーション

5 講義内容

回	講 義 内 容
1	第1章 介護過程とは 第1節 介護過程とはなにか。〔自己課題より介護過程の意味を考える〕
2	I 1 介護過程意義・目的 演習① 同じ支援でよいか。個別支援の必要性について
3	演習① 発表 2 介護過程の全体像
4	演習② 具体的な場面から、必要な知識・技術を考えてみよう
5	II 生活支援における介護過程の必要性
6	第3節 アセスメント（情報収集） ※アセスメントツールの紹介（介護福祉科アセスメント用紙を配布） 説明 { ジェノグラム 障害高齢者の日常生活自立度判定基準 認知症高齢者の日常生活自立度判定基準 情報収集の留意点
7	<演習2> 観察における情報収集 ～「外見」「持ち物」から～ <演習3> コミュニケーションにおける情報収集（クラスメイト同士で） <演習4> 他者からの情報をもとにした情報収集 ～いいところ探しを通して～
8	第3章 介護過程の実践的展開 第1節 介護過程の実践的展開 情報収集について 第2節 チームアプローチにおける介護福祉士の役割 ペーパーシミュレーションについて説明
9	<総合演習> ペーパーシミュレーションをもとに介護過程用紙 No.1～4 を記載 ※適宜巡回教員の指導を仰ぐ
10	<総合演習> ペーパーシミュレーションをもとに介護過程用紙 No.1～4 を記載 ※適宜巡回教員の指導を仰ぐ
11	第4章 介護過程とケアマネジメント 第1節 介護過程とケアマネジメントの関係性
12	第2節 チームアプローチにおける介護福祉士の役割
13	<総合演習> ペーパーシミュレーション清書 ※ 介護実習 I における介護過程の展開について説明 情報収集の留意点
14	介護実習 I における受け持ち利用者の介護過程用紙 No.1～4 を整理、清書 ※ 適宜巡回教員の指導を仰ぐ
15	科目修得試験

回	講 義 内 容
16	前期介護過程の振り返り 全体像 (No.5) について 介護の方向性について
17	<総合演習> ペーパーシミュレーションをもとに介護過程用紙 No.5 を記載 ※適宜巡回教員の指導を仰ぐ
18	<総合演習> ペーパーシミュレーションをもとに介護過程用紙 No.5 を記載 ※適宜巡回教員の指導を仰ぐ
19	第2章 介護過程の理解 第4節 アセスメント (解釈・関連づけ・統合化) ※文献検索について (参考・引用文献の記載ルール等)
20	<総合演習> ペーパーシミュレーションをもとに介護過程用紙 No.6 を記載 ※適宜巡回教員の指導を仰ぐ
21	<総合演習> ペーパーシミュレーションをもとに介護過程用紙 No.6 を記載 ※適宜巡回教員の指導を仰ぐ
22	<総合演習> ペーパーシミュレーションをもとに介護過程用紙 No.6 を記載 ※適宜巡回教員の指導を仰ぐ
23	第5節 介護計画の立案 (介護計画とは) (介護目標の設定) (具体的な支援内容・方法の決定)
24	<総合演習> ペーパーシミュレーションをもとに介護過程用紙 No.7 を記載 ※適宜巡回教員の指導を仰ぐ
25	<総合演習> ペーパーシミュレーションをもとに介護過程用紙 No.7 を記載 ※適宜巡回教員の指導を仰ぐ
26	第6節 介護の実施 (介護の実施とは) 第7節 評価 (評価の意義と目的) (実施における留意点) (評価の内容と方法) (実施の記録)
27	事例研究聴講
28	事例研究聴講
29	実施、評価 (No.8) について 実習前指導 ・ 試験対策
30	科目修得試験

介護総合演習 I

履修学年	第1学年
履修時期	前期・後期
履修時間数	90時間
単位数	3単位
授業回数	45回
講師名	千代森 倍世（専任講師）
授業形態	演習
備考	

1 学習目標

(1) 一般目標

講義や生活支援技術等の演習で学んだことを、実習先で一人ひとりの要介護者の生活支援にどのように活かしていくか、知識や技術の統合力や応用力、実践力が必要になる。専門科目で学んだことを実習先で役立てられるよう、関心をもつことの大切さや、疑問・不安等を解決していく能力を養う。

(2) 行動目標

- ① 実習に臨む心構えや高い専門性や倫理観を養い、介護実習に向けての心構えや予備知識、動機づけ等の準備や、実習後の振り返りを行うことで、効果的な介護実習を行えるようにする。また、これまで学んだ基本的知識、技術を通じて実践するための柔軟性や応用力、判断力などを養う。
- ② 介護施設の概要と利用者の生活像を理解し、介護福祉士としての役割を知る。
- ③ 基本的コミュニケーションの方法を理解し、実習時のマナーを習得する。
- ④ 実習へのイメージを明確にし、自己の目標や課題を言語化できる。

2 学習上の注意

- (1) グループワーク等では、お互いに協力しあい自分の意見を述べること。
- (2) 他者の意見にも耳を傾け、お互いに学びあう姿勢をもつこと。
- (3) 日頃から他者からどのように見られているのか自己の振り返りを行うこと。

3 評価の方法及び基準

- (1) 前期の筆記試験 50%
- (2) 平常点（出席状況・レポート提出・実習前後の取り組み） 50%

4 使用テキスト・参考文献等

- (1) 使用テキスト
第10巻 介護総合演習・介護実習 第3版 中央法規
- (2) 参考文献
講師作成資料を随時配布
- (3) その他
授業の中で視聴覚教材、講師紹介教材を随時使用

5 講義内容

回	講 義 内 容
1	・教科の目的を理解し、実習の流れについて確認する（実習要項配布）
2	・介護福祉士養成校における介護実習の位置づけについて理解する。
3	・施設見学の目的を理解し、施設見学に向け、事前学習を行う。
4	・施設見学の目的を理解し、施設見学に向け、事前学習を行う。
5	・施設見学に向け、事前学習及び最終確認を行う。
6	・施設を見学し、施設の実際を学ぶ。
7	・施設を見学し、施設の実際を学ぶ。
8	・施設見学の報告会に向け、内容をまとめ、資料を作成する。
9	・施設見学の報告会に向け、内容をまとめ、資料を作成する。
10	・施設見学の報告会に向け、内容をまとめ、資料を作成する。
11	・報告会資料の印刷し、発表に向けた準備をする。
12	・施設見学に伴う、報告会を行う。
13	・施設見学に伴う、報告会を行う。
14	・実習記録が、なぜ必要なのか理解し、記録用紙の種類を知る。
15	・2年生の報告会を聴講し、実習に向けての心構えができる。
16	・介護実習Ⅰについて意義・目的を理解し、事前学習を行う。
17	・介護実習Ⅰについて意義・目的を理解し、実習目標を立てる。
18	・日々の記録の書き方を具体的に理解し、具体的に記入する。
19	・日々の記録の書き方を具体的に理解し、具体的に記入する。
20	・実習前オリエンテーションの意義・目的を理解する。
21	・事前学習を行った上で実習前オリエンテーションに参加し、施設の概要を理解する。
22	・実習に向けて、実習生としての態度やマナーなど具体的な留意点を理解する。
23	・帰校日 実習で学んださまざまな体験や学び、疑問などの情報を共有する。
24	・報告会の意義・目的を理解し、報告会当日までの流れをグループで確認する。
25	～科目修得試験
26	・介護実習Ⅰについて、全ての記録物等の整理を行う。
27	・実習での自己の振り返りや、今後の課題を言語化し実習報告会に臨む。
28	・報告会を実施し、発表及び聴講を通して自分とは異なる視点や捉え方に気づく。
29	・日々の記録に必要な記入内容を再確認し、振り返りを行うと共に適宜追記する。
30	・介護実習Ⅲの報告会を傾聴し、2年次の実習に向け目的意識を持つ。
31	・介護実習Ⅰの記録を再確認することにより、記録での自分の傾向を認識する。
32	・介護実習Ⅱについて意義・目的を理解し、実習に臨む。
33	・事前学習を通し、実習にあたっての具体的な展開方法などを理解する。
34	・実習に必要な記録について理解し、介護実習Ⅱの実習目標を立てる。
35	・介護実習Ⅱに向けて事前学習を行う。
36	・実習前オリエンテーションに参加し、施設の概要を理解する。
37	・巡回教員と各自打ち合わせを行う。

38	・帰校日 実習で学んださまざまな体験や学び、疑問などの情報を共有する。
39	・帰校日 自己学習、巡回教員の指導を仰ぐ。
40	・帰校日 自己学習、巡回教員の指導を仰ぐ。
41	・報告会の意義・目的を理解し、報告会当日までの流れをグループで確認する。
42	・実習での自己の振り返りや、今後の課題を言語化し実習報告会に臨む。
43	・実習での学びを振り返り、グループの意見をまとめる。
44	・報告会に向けて、資料作成・印刷、発表の練習を行う。
45	・報告会にて他者に発表し聴講することにより、自分とは異なる視点や捉え方に気づく。

履修学年	第1・2学年
履修時期	前期・後期
履修時間数	450時間
単位数	11単位
授業回数	
講師名	介護実習施設Ⅰ・Ⅱ（各実習指導者）
授業形態	実習
備考	

1 学習目標

（1）一般目標

- ① 個々のリズムや個性を理解するという観点から、さまざまな生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、他職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する。
- ② 個別ケアを行うために、個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を統合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する。

（2）行動目標

介護実習Ⅰ（9日間）

- ① 生活の場において利用者を理解するために、コミュニケーションを実践し人間関係の形成を行うことができる。
- ② 介護実践のための基本的な生活支援技術を実践し、利用者の状況に応じた介護技術を適切に使う必要があることを理解する。
- ③ 個々の利用者の生活リズムや個性などを理解し、必要な情報を収集できる。

介護実習Ⅱ（19日間）

- ① 利用者の状況に応じた生活支援技術を的確に選択し、実践できる。
- ② 利用者の個別ケアを実施するために他職種協働や関係機関との連携について理解する。
- ③ 個々の利用者の必要な情報を収集し、自立支援の観点から利用者の生活課題を明確にし介護計画を立案できる。

介護実習Ⅲ（18日間）

- ① 利用者の個性を尊重した自立支援に視点をおいて、利用者の状況に応じた生活支援技術を的確に選択し、実践できる。
- ② 実際に施設や事業所のカンファレンス等に参加し、介護をする上で必要な他の職種の役割について学ぶことで、生活支援チームの一員としての介護福祉士の役割を理解する。
- ③ 個々の利用者の必要な情報を収集し、自立支援の観点から立案した介護計画に基づき、適切な介護が実践できる。

介護実習Ⅳ（5日間）

- ① 住み慣れた地域で生活を継続するためには、利用者が主体的に介護サービスを選択し活用できるような支援が必要であることを理解する。
- ② 人間形成をしながら慣れ親しんだ伝統や文化のある地域社会で暮らす高齢者や障害のある人が、施設等の利用に際しても、その人らしさを維持しながら生活する状況について理解する。

2 学習上の注意

目標を明確にし、各自の目標及び課題を達成できるように主体的に実習に臨むこと。実習中も、なぜそう思ったのか、根拠は何かなど考えながら行うこと。

3 評価の方法及び基準

① 段階ごとに実習指導者からの実習評価および巡回教員からの実習評価。

② 実習評価表にもとづく点数化

段階ごとに100点換算し、実習施設Ⅰ×0.1+実習施設Ⅱ×0.9=総合点数

4 使用テキスト・参考文献等

① 最新介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習（中央法規）

② 本科作成した介護実習要項

履修学年	第1学年
履修時期	前期
履修時間数	30時間
単位数	2単位
授業回数	15回
講師名	西村 美香（専任講師）
授業形態	講義
備考	

1 学習目標

(1) 一般目標

- ①人間の発達について理解を深める
- ②老年期の発達課題を理解し、高齢者の心理事象を理解する
- ③老化に伴う心身機能の変化と日常生活への影響を知り、生活援助技術を身につけるための基礎知識を習得する

(2) 行動目標

- ①老年期の発達課題について説明できる
- ②高齢者の心理特徴を踏まえた適切な対応や援助方法を身につける
- ③カウンセリング等の心理的援助技術についての知識を身につける

2 学習上の注意

- (1) 授業の中で、興味・関心を持ったことについては、自己の学習過程においても追求していくこと。
- (2) テキストだけではなく、新聞など様々なメディアを通して、高齢者がおかれている現状や問題点などに、興味関心をもつようにすること。

3 評価の方法及び基準

- (1) 科目修得試験またはレポート課題の提出、出席状況ならびに講義における受講態度等を総合して評価とする。
- (2) 学科履修規程第6条に規定する基準に基づくものとする。

4 使用テキスト・参考文献等

(1) 使用テキスト

最新・介護福祉士養成講座⑫ 「発達と老化の理解」＝中央法規出版

(2) 参考文献等

その他授業中に紹介する。

5 講義内容

回	講 義 内 容
1	オリエンテーション 人間の成長と発達の基礎的知識 成長・発達の考え方 人間の成長と発達の基礎的知識 成長・発達の原則・法則
2	人間の成長と発達の基礎的知識 成長・発達に影響する要因
3	人間の発達段階と発達課題 発達理論
4	人間の発達段階と発達課題 発達段階と発達課題
5	人間の発達段階と発達課題 身体的機能の成長と発達
6	人間の発達段階と発達課題 心理的機能の発達
7	人間の発達段階と発達課題 社会的機能の発達
8	老年期の特徴と発達課題 老年期の定義 老化とは
9	老年期の特徴と発達課題 老年期の発達課題
10	老年期の特徴と発達課題 老年期の発達課題
11	老年期の特徴と発達課題 老年期をめぐる今日的課題
12	老化にともなうところとからだの変化と生活 老化にともなう心理的な変化と生活への影響
13	老化に伴うところとからだの変化と生活 老化にともなう社会的な変化と生活への影響
14	対人援助職のこころの健康 まとめ
15	科目修得試験

履修学年	第1学年
履修時期	後期
履修時間数	30時間
単位数	2単位
授業回数	15回
講師名	田中 龍子（専任講師）
授業形態	講義
備考	

1 学習目標

(1) 一般目標

介護をおこなう上で、利用者のことを理解することではじめてよい介護ができるといえる。そのためには、こころとからだのしくみを学び高齢者の身体面と精神面の関連、身体的機能と精神的機能の変化について学ぶ。加齢に伴う障害や疾病について理解し介護をおこなうことが、障害や病気に応じた社会参加や自己実現に結びつくことを理解できることを目標とする。

(2) 行動目標

- ①高齢者に多い疾病とその症状の現れ方の特徴を高齢者医療に関わる医療職から学び、実際に生活する場面の中で理解でき、環境等により個人差があることを理解することができる。
- ②高齢者に現れる症状を学び、生活支援の中でいつもとの違いを感じ取り、医療職とどのような連携が必要かについて理解できる。
- ③知識が、各段階における利用者の自立に向けた生活支援技術の根拠となることを理解できる

2 学習上の注意

- (1) 専門的知識を学ぶ上で、しっかりと講義を聴く姿勢を大事にすること。
- (2) 専門用語については、その内容の1つ1つを誤字なく記載でき、その内容についても理解できるよう学習する。

3 評価の方法及び基準

- (1) 科目修得試験60%、レポート課題30%、受講状況10%

4 使用テキスト・参考文献等

- ①最新・介護福祉士養成講座12 「発達と老化の理解」 中央法規
- ②介護に使えるワンポイント医学知識 中央法規
- ③「医療的ケア」 メジカルフレンド社
- ④「老いを理解する」 杉澤秀博 建帛社

5 講義内容

回	テーマ	内 容	講義方法
1	4章 老化にともなうところとからだの変化と生活	第4章 老化にともなうところとからだの変化と生活 加齢による生理機能の全体的低下 第5章 高齢者と健康 高齢者の症状・疾患の特徴	教科書に添い、内容をまとめる。
2	第5章 高齢者と健康	高齢者の症状・疾患の特徴 1 骨格系・筋系	教科書に添い、内容をまとめる。
3	第5章 高齢者と健康	1 骨格系・筋系	教科書に添い、内容をまとめる。
4	第5章 高齢者と健康	1 骨格系・筋系 高齢者に多い骨折	教科書に添い、内容をまとめる。
5	第5章 高齢者と健康	3 皮膚・感覚器系 目・耳・皮膚疾患	教科書に添い、内容をまとめる。
6	第5章 高齢者と健康	3 皮膚・感覚器系 目・耳・皮膚疾患	教科書に添い、内容をまとめる。
7	第5章 高齢者と健康	4 循環器系 虚血性心疾患・心不全・閉塞性動脈硬化症	教科書に添い、内容をまとめる。
8	第5章 高齢者と健康	6 消化器系 消化性潰瘍・逆流性食道炎・肝硬変	教科書に添い、内容をまとめる。
9	第5章 高齢者と健康	パーキンソン病・変形性膝関節症・脳血管疾患・糖尿病についてグループ学習	グループ学習
10	第5章 高齢者と健康	パーキンソン病・変形性膝関節症・脳血管疾患・糖尿病についてグループ学習	グループ学習
11	第5章 高齢者と健康	7 腎・泌尿器系	教科書に添い、内容をまとめる。
12	第5章 高齢者と健康	パーキンソン病・変形性膝関節症・脳血管疾患・糖尿病について発表	グループ発表
13	第5章 高齢者と健康	パーキンソン病・変形性膝関節症・脳血管疾患・糖尿病について発表	グループ発表
14	第5章 高齢者と健康	全体の振り返り 国家試験問題	内容について、説明 個別対策
15	科目修得試験		

認知症の理解 I

履修学年	第1学年
履修時期	後期
履修時間数	30時間
単位数	2単位
授業回数	15回
講師名	秀 亜紀子（専任講師）
授業形態	講義
備考	

1 学習目標

(1) 一般目標

認知症の人を支えるために、特徴的な行動を理解しその背景を学ぶことで、虐待や不適切介護を生じさせないための知識や具体的対応につなげられることを学ぶ。また、介護福祉士として家族への支援の重要性や他職種や地域との連携や協働による継続的ケアの必要性を理解する。

(2) 行動目標

- ① 認知症に伴う、こころとからだの変化などの基礎知識を習得した上で、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する。
- ② 認知症の人の特徴的な心理と行動を理解できる。
- ③ 認知症による日常生活への影響を理解できる。
- ④ 家族や地域との具体的連携のための方法を理解できる。

2 学習上の注意

- (1) グループワーク等では、お互いに協力しあい自分の意見を述べること。
- (2) 他者の意見にも耳を傾け、お互いに学びあう姿勢をもつこと。
- (3) 認知症の理解を深めるために、体験を通してイメージ化しながら取り組むこと。

3 評価の方法及び基準

科目修得試験75%、提出物20%、平常点5%

4 使用テキスト・参考文献等

(1) 使用テキスト

最新 介護福祉士養成講座13 認知症の理解 中央法規

(2) 参考文献

講師作成資料を随時配布

(3) その他

授業の中で視聴覚教材を随時使用

5 講義内容

回	講 義 内 容
1	認知症とは何か ・認知症を学ぶ必要性を理解し、学習の動機づけとなるようにイメージ化する ＜演習＞ 生活の捉え方 高齢者の持つ文化的側面
2	認知症ケアの歴史 ・老人福祉法制定以降の認知症を取り巻く環境について理解する
3	認知症ケアの歴史 ・介護保険法制定以降の認知症を取り巻く環境について理解する
4	認知症の定義、原因について ・資料を活用し基礎的な知識を身につける
5	アルツハイマー型認知症について ・病理、症状、経過、特徴、治療、予防について学ぶ
6	血管性認知症について ・病理、症状、経過、特徴、治療について学ぶ
7	レビー小体型認知症について ・病理、症状、経過、特徴、治療、予防について学ぶ
8	前頭側頭型認知症について ・病理、症状、経過、特徴、治療について学ぶ ・DVD 視聴
9	その他の認知症、治る認知症、認知症と間違えられやすい症状について ・慢性硬膜下血腫、正常圧水頭症、甲状腺機能低下症、アルコール性認知症 ・うつ病、せん妄
10	認知症とは区別される記憶障害について ・生理的記憶障害 ・軽度認知障害 (MCI)
11	若年性認知症について ・若年性認知症の定義、状況を理解する ・DVD 視聴
12	認知症の人の行動・心理症状について ・中核症状と BPSD を理解する
13	認知症の診断と治療について ・診断の過程、評価尺度について理解する ＜演習＞ 長谷川式認知症スケール (HDS-R)
14	認知症の人の心理的理解 ・DVD 視聴
15	科目修得試験

履修学年	第1学年
履修時期	前期
履修時間数	30時間
単位数	2単位
授業回数	15回
講師名	楡橋 弘喜 (非常勤講師)
授業形態	講義
備考	

1 学習目標

(1) 一般目標

- ①介護の知識だけでなく医療・看護についての深い知識と理解を身につける。
- ②医学知識を理解することによって質の高いサービスを提供する。

(2) 行動目標

- ①人体の基本的な構造や機能及びその病的状態について説明できる。
- ②代表的な疾患についてその概要が説明できる。
- ③生活習慣病を理解しその予防方法を療養介護に取り入れることができる。
- ④保健医療に関する基礎知識が理解でき保健医療の仕組みが説明できる。
- ⑤保健医療対策の概要が説明できる。
- ⑥医療法制の概要が説明できる。

2 学習上の注意

講義ではテキストを基本教材とし老人医療、生活習慣病を中心とした講義とする。
参考資料（自作の教材・文章コピー）を活用し、理解と興味を持たせる講義とする。

3 評価の方法及び基準

1. 科目修得試験を行い医学知識の就学度を評価し、介護と医療の連携の考え方をレポート提出にて評価を行う。
2. 学科履修規定6条に基づくものとする。

4 使用テキスト・参考文献等

(1) 使用テキスト

「こころとからだのしくみ」 最新介護福祉全書 1 2 メジカルフレンド社

(2) 参考文献

内科学	中島 正男	中央病院共済会
新・病態生理	橘 敏也	薬業時報社
老年期の診療とリハビリテーション	Bernard Isaacs	医歯薬出版株式会社
痴呆老人からみた世界	小澤 勲	岩崎学術出版
神経内科・脳と神経	小長谷正明	岩波出版

5 講義内容

回	テーマ	内容	講義方法
1	オリエンテーション「心と身体 のしくみ」	介護福祉士像に求められる身体の機能と人間の基本的欲求の理解	講義
2	人間の欲求の基本的理解と尊 厳。 自己実現	人間の基本的欲求を踏まえて、社会的欲求や尊厳へ結びつける。 自己実現と生きがい	講義
3	<u>こころのしくみの理解</u> こころのしくみの基礎①	こころのしくみに関する基礎概念・事項の整理、こころのしくみに関する諸理論、思考・学習・記憶のしくみ、感情・意欲・動機付けのしくみを学習	講義
4	<u>こころのしくみの理解</u> こころのしくみの基礎②	適応のしくみの理解。介護実践と適応の関係を学習	講義
5	<u>からだのしくみの理解</u> からだのしくみの基礎①	バイタルサイン、ホメオスタシスについて理解し、バイタルサインの異常を認知できることを学習	講義
6	<u>からだのしくみの理解</u> からだのしくみの基礎②	人体の生理・解剖を学習 神経系、心血管系を学習	講義
7	<u>からだのしくみの理解</u> からだのしくみの基礎③	人体の生理・解剖を学習 呼吸器系、消化器系、尿路性器系を学習	講義
8	<u>からだのしくみの理解</u> からだのしくみの基礎④	人体の生理・解剖を学習 皮膚及び関連部位の理解、運動に関する構造と名称の理解、関節可動域の理解	講義
9	<u>からだのしくみの理解</u> からだのしくみの基礎のまとめ	からだのしくみの基礎に関してまとめ、高齢者の症状・疾患の特徴を理解	講義
10	<u>からだのしくみの理解</u> 移動に関連したところとからだのしくみ①	運動・移動を利用し移動の概要を理解し、移動行為の生理的意味の理解	講義
11	<u>からだのしくみの理解</u> 移動に関連したところとからだのしくみ②	立位・座位保持のしくみ、歩行のしくみの理解	講義
12	<u>からだのしくみの理解</u> 移動に関連したところとからだのしくみ③	筋力・骨の強化のしくみ、安全安楽な移動・姿勢・体位の保持のしくみを理解 良肢位の理解	講義
13	<u>からだのしくみの理解</u> 移動に関連したところとからだのしくみ④	移動に関する機能低下の原因と機能低下が移動に及ぼす身体の負担の理解	講義
14	<u>からだのしくみの理解</u> ADLに関連したところとからだのしくみ①	ADLに関する機能低下の原因と機能低下がADLに及ぼす身体の負担の理解	講義
15	科目修得試験		

履修学年	第1学年
履修時期	前期・後期
履修時間数	60時間
単位数	4単位
授業回数	30回
講師名	椎屋 良子（専任講師）
授業形態	講義
備考	

1 学習目標

(1) 一般目標

介護サービスを実際に行うに場合の根拠について、学び、理解していくための内容である。現在、介護サービスは多様化しておりそれに答えるべき専門性を身につけていくことが必要である。この教材では、こころのしくみ・移動、身じたく、食事、入浴においての知識を深めていくことを目標とする。

(2) 行動目標

- ①介護実践の最も基礎的な根拠を学び。これは医療職を中心とした多職種との協働との基礎となり、また介護を必要とする人々の安全と安心の基礎となる。この教科ではこころのしくみ、移動、身じたく、食事、入浴の5つの内容についての理解を深めることを目的とする。
- ②こころのしくみ（人間の基本的欲求・社会的欲求・自己概念と尊厳、思考・学習・記憶・感情・動機づけ・適応等）について基本的理解をはかることができる。
- ③移動・身じたく・食事・入浴に関連したこころとからだのしくみについて基本的理解をはかることができる。
- ④利用者の「いつもの様子」から、こころとからだの状態変化に気づく観察の視点を学び医療関係職種との連携が、はかれる知識を習得することができる。
- ⑤生活行為の援助においてその根拠について説明することができる。
- ⑥チームの一員として協働するため、多職種との連携に必要な共通専門用語について理解できる。

2 学習上の注意

- (1) 専門的知識を学ぶ上で、しっかりと講義を聴く姿勢を大事にすること。
- (2) 専門用語については、その内容の1つ1つを誤字なく記載でき、その内容についても理解できるよう学習する。
- (3) レポート課題に関しては、参考文献等を検索し主体的に取り組み提出期日を必ず守ること。

3 評価の方法及び基準

- (1) 科目修得試験実施。
- (2) 出席状況、受講態度、グループワークの参加状況等も評価の対象とする。

4 使用テキスト・参考文献等

(1) 使用テキスト

①「こころとからだのしくみ」 最新介護福祉全書12 メジカルフレンド社

(2) 参考文献

- ①介護に使えるワンポイント医学知識 中央法規 白井 孝子
- ②高齢者の医学知識 日総研 三宅 貴夫
- ③介護職員基礎研修テキスト編集委員会編 第3巻・第7巻
- ④医学一般 中央法規
- ⑤イラストで学ぶ解剖・生理学 医学書院

(3) その他

5 講義内容

回	講 義 内 容
1	1. オリエンテーション 1) 「こころとからだのしくみ」を理解する必要性・意義について ・この授業の位置づけの理解 ・介護実践との関連を理解でき、学習の動機づけとなる。
2	第1章「生きている」しくみの理解 1) からだの形と臓器の場の理解 ・からだの形と臓器の場 ・からだの部位の名称
3	第1章「生きている」しくみの理解
4	1) 生命活動を調節するしくみ
5	・生命徴候としての呼吸、体温、脈拍、血圧 ・バイタルサインの演習
6	第4章「活動・移動」に関連したこころとからだのしくみ
7	1) 活動・移動に関連したこころとからだの基礎知識 ・身体の骨と関節、筋、神経の働きのしくみ ・刺激の性質と伝わる速さ
8	2) 「活動・移動」に関連したこころとからだのしくみ
9	・活動、移動の目的と生理的・心理的意味 ・日常生活動作 ・活動、移動に必要な基本的姿勢と動作 ・立位の保持のしくみ ・座位の保持のしくみ ・移動の基本となる体位変換 ・歩行のしくみ ・車いすを動かす しくみ ・ボディメカニクス
10	3) 機能の低下・障害が及ぼす活動・移動への影響
11	・活動、移動に関する機能の低下、障害の原因 ・機能の低下、障害が及ぼす活動、移動への影響 ・運動が及ぼすからだへの負担 4) 生活場面におけるこころとからだの変化の気づきと医療職との連携 ・こころへの影響 ・からだへの影響 ・生活への影響 ・異常の発見のために注意すべき「変化」
12	第3章「身じたく」に関連したこころとからだのしくみ
13	1) 身じたくに関連したこころとからだの基礎知識
14	・身じたくのもつ意味 ・顔面の構造と機能 ・感覚器で外界をとらえるしくみ ・口腔の構造と機能 ・爪の構造と機能 ・毛髪の構造と機能 2) 身じたくに関連したこころとからだのしくみ ・洗顔に関連したこころとからだのしくみ ・口腔の清潔に関連したこころとからだのしくみ ・更衣に関連したこころとからだのしくみ ・爪の清潔に関連したこころとからだのしくみ ・毛髪の清潔に関連したこころとからだのしくみ 3) 機能の低下・障害が及ぼす身じたくへの影響 ・視覚機能の低下、障害 ・運動機能の低下、障害 ・口腔の清潔に関する機能の低下 4) 生活場面におけるこころとからだの変化の気づき ・口腔の清潔を嫌がる原因 ・足の爪の感染症とその予防
15	科目修得試験

回	講 義 内 容
16	第5章 「食事」に関連したところとからだのしくみ
17	1) 食事に関連したところとからだの基礎知識
18	・からだをつくる栄養素 ・1日に必要な栄養量 ・必要な栄養量 ・水分摂取の意義
19	2) 食べることに関連したところとからだのしくみ
20	・人間にとって食事とは何か。食事の生理的意味、・心理社会的意味
21	・食欲、おいしさを感じるしくみ ・のどが渇くしくみ ・食べるしくみ ・消化と吸収はどのように行われるのか
22	3) 機能の低下や障害が及ぼす食事への影響
23	・食べることに関する機能の低下、障害の原因
24	・機能の低下、障害が及ぼす食事への影響
	4) 生活場面におけるところとからだの変化の気づきと医療職との連携
	・窒息の予防と窒息時の対処 ・誤嚥を予防するための日常生活での留意点 ・脱水を予防するための日常生活での留意点
25	第6章 「入浴・清潔保持」に関連したところとからだのしくみ
26	1) 入浴・清潔保持に関連したところとからだの基礎知識
27	・人間を守る皮膚のしくみ ・頭部の皮膚を保護する頭髮のしくみ
	2) 清潔保持に関連したところとからだのしくみ
	・入浴、清潔保持とはなにか ・入浴に必要な身体運動 ・リラックス、爽快感を感じるしくみ ・皮膚の汚れが及ぼす影響とその対策 ・発汗のしくみと汗が及ぼす影響 ・陰部の清潔と尿路感染の防止 ・毛髪の清潔と汚れが及ぼす影響
28	3) 機能の低下・障害が及ぼす入浴・清潔保持への影響
29	・入浴、清潔保持に関する機能の低下、障害の原因 ・機能の低下、障害が及ぼす入浴、清潔保持への影響 ・入浴が及ぼすからだへの負担 ・洗髪時の体位と体位負荷 ・入浴での事故
	4) 生活場面におけるところとからだの変化と気づき
	・皮膚の変化 — 感染を示す変化など ・循環動態の異常を示す変化
30	科目修得試験

履修学年	第1学年
履修時期	後期
履修時間数	75時間
単位数	5単位
授業回数	38回
講師名	椎屋良子・田中龍子（専任講師）
授業形態	講義
備考	

1 学習目標

(1) 一般目標

「社会福祉士及び介護福祉士法」の一部改正により、喀痰吸引・経管栄養という医行為を一定の条件の下実施することができることを理解した上で、利用者に対して医療提供上の危機管理も踏まえて安全に実施できる知識と実践力を学ぶ。また、利用者に対して医行為を実施する場合、医療の倫理を遵守しチームの一員であることを自覚することができる態度を養うことを理解する。

(2) 行動目標

- ①医療の倫理を基盤に、個人の尊厳と自立についてや利用者や家族の気持ちを理解する考え方を学び人の命を守る大切さを理解する。
- ②医行為について理解し、喀痰吸引と経管栄養についての医療職と介護職との連携についての学びを深めるとともにチームの一員である自覚について理解する。
- ③職員の感染予防や療養環境の清潔・消毒方法について理解し、急変時の状態・対応についての行動を実践できる。
- ④高齢者及び障害児・者の呼吸器系についての解剖・生理を理解した上で、喀痰吸引に対しての行為に対する説明ができ安全に迅速に喀痰吸引ができる方法・知識について理解する。
- ⑤高齢者及び障害児・者の消化器系についての解剖・生理を理解した上で、経管栄養に対しての行為が説明でき安全に確実に経管栄養の方法ができる知識と実践を理解する。

2 学習上の注意

- ① 医行為として人の命を守る大切さについての知識と理解を深め実践できることのみにとらわれず利用者の方の気持ちを尊重し、主体的に考える姿勢をもつ。
- ② 解剖生理についての知識を深め、一つ一つ専門知識を深めるためにも自身でも講義に積極的に参加し、内容についての復習を行うよう努力する。

3 評価の方法及び基準

- ①喀痰吸引について 科目修得試験40%、受講状況10%
 - ②経管栄養について 科目修得試験40%、受講状況10%
- ※①②の合計60%以上を合格とする。但し、①②どちらか30%以下の場合、その内容のみ不合格とする。

4 使用テキスト・参考文献等

(1) 使用テキスト

- ①最新介護福祉全書13 医療的ケア 編集 川井太加子 メジカルフレンド社
- ②「たんの吸引・経管栄養」がスラスラわかるイラスト学習帳 株式会社 エクスナレッジ

(2) 参考文献等

- ①見てわかる医療スタッフのための痰の吸引 基礎と技術 学研

(3) その他 ビデオ等の視聴覚教材

5 講義内容

回	テーマ	内容	講義方法	
1	オリエンテーション 1. 医療的ケア実施の基礎	①医療的ケアを学び行う様になった経緯について理解する。 ②医療的ケア実施にあたっての基本的な心構えを理解できる。	講義	①シラバスをもとに、概要とこの授業をとおしての達成目標について説明する。
2	2. 人間と社会 1. 個人の尊厳と自立 2. 医療の倫理	①個人の尊厳を守り、自立を支援することを理解できる。 ②医療の倫理について理解できる。 ③自己決定権とは何かについて理解できる。	講義	①一般的倫理と職業的倫理について説明する。 ②医療的ケアにおける倫理について説明する。
3	2. 人間と社会 2. 医療の倫理 3. 利用者や家族の気持ちの理解	①説明と同意について理解できる。 ②守秘義務について理解できる。 ③利用者・家族の気持ちを理解することの重要性について理解できる。	演習	①医療的ケアを受ける利用者や家族の気持ちを出し合い、立場に立って考える。
4	3. 高齢者及び障害児・者の喀痰吸引 1. 呼吸のしくみとはたらき	①呼吸の重要性を理解できる。 ②呼吸器官の名称を言える。 ③換気とガス交換について理解できる。	講義	①教科書の絵図を参考に理解を深める。
5	3. 保健医療制度とチーム医療 1. 保健医療に関する諸制度 2. 医行為に関する法律 3. チーム医療と介護職員との連携	①医療的ケアと保健医療や介護保険に関する制度などの関連について理解できる。 ②医行為について理解できる。 ③チーム医療の意義、医療職と介護職の連携について理解できる。 ④チーム医療における介護福祉士の役割を理解できる。	講義	①教科書の絵図を参考に説明を行い、重要な箇所は下線を引かせる。
6	4. 安全療養生活 1. 喀痰吸引や警官栄養の安全な実施	①医療的ケアを安全に実施することの重要性を理解できる。 ②リスクマネジメントとその対策について理解できる。 ③ヒヤリハットまたはアクシデントの報告について理解できる。	講義	①教科書の内容を参考に、安全に実施することの重要性を説明する。重要な箇所は下線を引かせる。
			演習	①事例を通してヒヤリハット報告書の記入を実際に行う。
7	5. 感染予防と清潔保持 1. 感染予防 2. 介護職員の、感染予防	①感染予防の基礎知識を学び、スタンダードプリコーションや正しい手洗い法、うがい法を理解できる。 ②介護職員自身の健康管理と、感染予防のための手袋やマスク、ガウンの装着の効果を理解できる。 ③介護職員自身に切り傷がある場合あかぜを引いた場合の感染予防法を理解できる。	講義	①教科書の内容を参考に、重要な箇所は下線を引かせる。 ②感染についての別参考資料を使用し、感染について説明する。
			演習	①実際に、手洗い、うがい、ガウンテクニックを実施させる。
8	5. 感染予防と清潔保持 3. 療養環境の清潔、消毒法 4. 滅菌と消毒	①居室、体液・分泌物、排泄物、あるいは医療廃棄物の処理の方法を理解できる。 ②消毒と滅菌の意味を学び、その使い方や消毒液の使用上の留意点について理解できる。	講義	①教科書の内容を参考に、消毒の方法、消毒液について説明し、重要な箇所に下線を引かせる。
			演習	①消毒液を実際に用いて、消毒液の作り方、留意点を学ばせる。

回	テーマ	内容	講義方法	
9	3 高齢者及び障害児・者の喀痰吸引 2. いつもと違う呼吸状態 3. 喀痰吸引とはなにか。	①いつもと違う呼吸状態について説明でき ②痰を生じて排出するしくみを説明できる。 ③痰の貯留を示す状態を説明できる。	講義	①事例やこれまでの経験の中から説明する。
10	3 高齢者及び障害児・者の喀痰吸引 3. 喀痰吸引とはなにか。 4. 喀痰吸引が必要な状態	①喀痰吸引とは何かについて理解できる。 ②喀痰吸引が必要な状態を理解できる。	講義	①喀痰吸引が必要な状態については、病気や状態をについて説明し理解を深める。
11	6 健康状態の把握 1. 身体・精神の健康	①健康とは何か、利用者のふだんの状態をとおして理解できる。 ②バイタルサインや意欲、顔貌、顔色、食欲、行動の観察法や、ふだんの状態と違う場合の報告の方法について理解できる。 ③バイタルサインの見方と利用者の急変状態を理解できる。 ④利用者の急変時に対応するための事前準備、報告、連絡網、記録などを理解できる。	講義	①教科書を参考に健康について説明し、ふだんの状態を知っておくことの重要性を説明する。
			演習	①バイタルサイン測定を各学生同士で実施し、異常、正常、性状を理解させる。報告、記録を行い、報告の方法を学ばせる。
12	第2部 2 高齢者および障害児・者の「経管栄養」 1. 消化器系のしくみと働き 2. 消化器の主な症状	①消化器系のしくみとはたらき、消化器の症状について理解できる。	講義	①教科書の絵図を参考に消化器系とその付属器官について説明する。 ②消化器の症状について、実体験から考えさせ、理解を深める。
13	3 高齢者及び障害児・者の喀痰吸引 1. 喀痰吸引で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔保持	①吸引の必要物品がわかる。 ②吸引器等の仕組みが説明できる。 ③清潔保持（消毒）方法が説明できる。	講義	①実物を提示し説明を加え、質疑応答形式にて理解を深める。
14	3 高齢者及び障害児・者の喀痰吸引 1. 人工呼吸器と吸引	①人工呼吸療法について理解できる。 ②人工呼吸器のしくみについて理解できる。 ③口鼻マスク及び鼻マスクの取り扱いについて理解できる。	講義	①人工呼吸器管理は行わないが、注意点についての理解を深める。
15	2 高齢者および障害児・者の「経管栄養」 3. 経管栄養とは 4. 経管栄養で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔の保持	①経管栄養のしくみと種類、使用する器具等の、取り扱いについて理解できる。	講義	①教科書の内容を参考に、経管栄養について重要な箇所に下線を引き説明する。 ②実物を提示し実際に触れることで使用する器材のしくみを理解させる。
16	2 高齢者および障害児・者の「経管栄養」 5. 注入する内容に関する知識 6. 経管栄養実施上の留意点	①経管栄養に使用する経管栄養剤の内容、取り扱いについて理解できる。 ②経管栄養実施上の留意点について理解できる。	講義	①教科書の内容を参考に、経管栄養について重要な箇所に下線を引き説明する。
			演習	②実際挿入部に触れることで留意する理由、部分を説明する。
17	4 安全な療養生活 2. 救急蘇生	①救急蘇生が必要な状況を理解することができる。	演習	①市消防局応急手当研修センターに出向していただき、救急蘇生の方法について理解する。

回	テーマ	内容	講義方法	
18	4 安全な療養生活 2. 救急蘇生	②救急蘇生の意義や救急蘇生法の手順について理解する。	演習	①市消防局応急手当研修センターに出席していただき、救急蘇生の方法について理解する。
19	3 高齢者及び障害児・者の喀痰吸引 1. 気管カニューレ内部の吸引	①侵襲的人工呼吸療法について理解できる。 ②気管カニューレのしくみと種類について理解できる。 ③気管カニューレ内部の吸引の留意点について理解できる。	講義	①気管カニューレを用い説明し理解を深める。
20	3 高齢者及び障害児・者の喀痰吸引 1. 気管カニューレ内部の吸引 2. 緊急を要する状態と対応	①気管カニューレ内部の吸引の手順について理解できる。 ②人工呼吸器装着者の生活支援上の留意点について理解できる。 ③緊急時の対応について理解できる。	講義	①DVDを視聴し理解を深める。 ②緊急を要する状態が説明できる。
21	2 高齢者および障害児・者の「経管栄養」 6. 経管栄養実施上の留意点	①経管栄養実施上の留意点について理解できる。	演習	①実際挿入部に触れることで留意する理由、部分を説明する。 ②実際に実施させる。
22	2 高齢者および障害児・者の「経管栄養」 7. 子どもの経管栄養について	①子どもの経管栄養について、適応、使用物品栄養剤、実施上の留意点について理解できる		①教科書を参考に重要な箇所に下線を引かせる。また、実際の器具を見せることで、子どもの使用する器具を理解させる
23	3 高齢者及び障害児・者の喀痰吸引 1. 子どもの吸引 2. 喀痰吸引に伴うケア	①子どもの吸引の留意点について理解できる。 ②喀痰吸引に伴うケアについて理解できる。	講義	①子どもに対する声かけや対応について各自で考え、発表する。
24	3 高齢者及び障害児・者の喀痰吸引 1. 吸引を受ける利用者や家族への対応	①吸引を受ける利用者や家族の気持ちを理解できる。 ②吸引を受ける利用者や家族の対応について理解できる。	講義	①具体的な声かけや互いに行ない対応について学ぶ。
25	2 高齢者および障害児・者の「経管栄養」 8. 経管栄養に必要なケア	①経管栄養に必要な各関連部位のケアとその必要性及び、留意点を理解できる。	講義 演習	①教科書の内容について、説明し、重要な箇所には下線を引かせる。 ①実際に、模型を活用しながらデモンストレーションを行う。
26	2 高齢者および障害児・者の「経管栄養」 9. 経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意	①利用者の経管栄養に対する気持ち、家族の気持ちを理解できる。 ②利用者と家族の気持ちに沿った対応と留意点について理解できる。	講義	①具体的な声かけや互いに行ない対応について学ぶ。
27	3 高齢者及び障害児・者の喀痰吸引 1. 呼吸器系の感染と予防 2. 喀痰吸引により生じる危険	①感染症の症状とその予防について理解できる。 ②喀痰吸引により生じる危険と観察のポイントについて理解できる。	講義	①どのような状態や状況時に感染が起きるのか、危険性があるのかについて対応例を参照して理解を深める。

回	テーマ	内容	講義方法	
28	<u>3 高齢者及び障害児・者の喀痰吸引</u> 1. 喀痰吸引により生じる危険 2. 急変・事故発生時の対応 3. 報告及び記録	①ヒヤリハット・アクシデントの実際について理解できる。 ②緊急時の対応について学ぶ。 ③報告及び記録の書き方について理解できる。	講義	①喀痰吸引で起こり得るヒヤリハット・アクシデントについて考え、対応について理解する。
29	<u>2 高齢者および障害児・者の「経管栄養」</u> 10. 経管栄養に関する感染と予防	①経管栄養における感染およびその予防について理解できる。	講義	①教科書の内容を参考に、説明する。質疑、応答しながら理解の確認をしていく。
30	<u>2 高齢者および障害児・者の「経管栄養」</u> 11. 経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認 12. 急変・事故発生時の対応と事前対策 13. 報告および記録	①経管栄養により生じる危険の種類と対応について理解できる。 ②緊急を要する状態・症状について理解できる。急変・事故発生時の報告・連絡・応急処置の対応を理解できる。	講義	①教科書の絵図内容を参考に、説明し、理解を深めさせる。 ②事例を通し、連絡・報告・記録を実際に行う。
31	<u>4 喀痰吸引の実施の手順と留意点</u> 1. 口腔内・鼻腔内	①今までの教授した内容を振り返り、手順と留意点についての理解を深める。	演習	①教員がデモンストレーション形式で実施し、1つ1つの内容を確認して学ぶ。
32	<u>4 喀痰吸引の実施の手順と留意点</u> 1. 口腔内・鼻腔内 2. 気管カニューレ内部	①今までの教授した内容を振り返り、手順と留意点についての理解を深める。	演習	①教員がデモンストレーション形式で実施し、1つ1つの内容を確認して学ぶ。
33	<u>経管栄養の実施の手順と留意点</u> 1. 胃ろう・腸ろう経管栄養 2. 経鼻経管栄養	①今までの教授した内容を振り返り、手順と留意点についての理解を深める。	演習	①教員がデモンストレーション形式で実施し、1つ1つの内容を確認して学ぶ。
34	<u>経管栄養の実施の手順と留意点</u> 1. 胃ろう・腸ろう経管栄養 2. 経鼻経管栄養	①今までの教授した内容を振り返り、手順と留意点についての理解を深める。	演習	①教員がデモンストレーション形式で実施し、1つ1つの内容を確認して学ぶ。
35	<u>4 喀痰吸引の実施の手順と留意点</u> 2. 気管カニューレ内部	①今までの教授した内容を振り返り、手順と留意点についての理解を深める。	演習	①教員がデモンストレーション形式で実施し、1つ1つの内容を確認して学ぶ。
36	<u>4 喀痰吸引の実施の手順と留意点</u> 2. 気管カニューレ内部	①今までの教授した内容を振り返り、手順と留意点についての理解を深める。	演習	①教員がデモンストレーション形式で実施し、1つ1つの内容を確認して学ぶ。
37	内容振り返り	これまでの内容を振り返り、疑問点などについて検討し理解を深めることができる。	演習	①各自、自己学習する。
38	科目修得試験			

履修学年	第1学年
履修時期	前期
履修時間数	30時間
単位数	1単位
授業回数	15回
講師名	由川 豊和 (非常勤講師)
授業形態	講義・演習・実技
備考	

1 学習目標

(1) 一般目標

- ① 福祉現場ですぐに生かせるレクリエーション実技を体験的に学び、レクリエーション援助のための知識と技術を身につける。

(2) 行動目標

- ① サービス提供者としての基本的態度を形成するため、ロールプレイ学習方法で援助技術を深める。
- ② グループ活動から個別指導実施により創意・工夫および応用ができる。

2 学習上の注意

- (1) 演習によるフィードバック中心で、資料忘れ等チェックする。
- (2) 実技では体操服・体育館シューズ着用し忘れた者は見学する。

3 評価の方法及び基準

- (1) 出席状況及び受講態度。
- (2) レポート提出 (レク支援者としての意識)
- (3) 科目修得試験 (理論・実技)

4 使用テキスト・参考文献等

(1) 使用テキスト

講師作成資料を随時配布

(2) 参考文献

- ① 楽しさをおとした心の元気づくり <日本レクリエーション協会>
- ② レクリエーション活動援助法 <中央法規出版>
- ③ 福祉レクリエーションの援助 <中央法規出版>
- ④ 楽しいレク・リハビリ実践本 <日本レク出版>
- ⑤ 懐かしい愛唱歌集 <宮崎県老人クラブ連合会>
- ⑥ あしすと <全国福祉レクリエーションネットワーク研究誌>

(3) 参考文献

- ① 実技等解説書及び自己評価表

5 講義内容

回	講 義 内 容
1	・ガイダンス 学習を学ぶにあたって
2	・レクリエーション基礎理論 レクリエーションとは
3	・コミュニケーションワーク 信頼関係づくりの方法・ホスピタリティー
4	・コミュニケーション・ゲーム 楽しい福祉レクの実践
5	・レクリエーション支援理論 コミュニケーションと信頼関係づくり
6	・コミュニケーション・ゲーム 楽しい福祉レクの実践
7	・レクリエーション活動の習得 ニュースポーツ（実技・体育館）
8	・レクリエーション活動の習得 カローリング体験
9	・レクリエーション支援の方法 アイスブレイキングの意義と基本技術
10	・レクリエーション支援の方法 アイスブレイクによるアイスビルド演習
11	・レクリエーション活動の習得 創って遊ぶ（素材の活用）
12	・レクリエーション活動の習得 創って遊ぶ（素材の活用）
13	・レクリエーション支援の方法 自主性、主体的に楽しむ力を育む展開方法
14	・レクリエーション支援の方法 モデル・プログラムの演習、安全管理
15	・科目修得試験（理論・実技）

第 2 学 年

履修学年	第2学年
履修時期	前期
履修時間数	30時間
単位数	2単位
授業回数	15回
講師名	新名 隆宏（専任講師）
授業形態	講義
備考	

1 学習目標

（1）一般目標

- ①「障害」の理念と「障害児者」の実態を正しく理解する。
- ②障害児者福祉の基本理念、目的について理解する。
- ③障害児者福祉に関する法律とサービス体系・内容を理解する。
- ④障害児者福祉に関連する諸機関に従事した際に必要不可欠な知識を身に付ける。

（2）行動目標

- ①「障害」についての理念等を整理し、説明できる。
- ②障害児者福祉に関する多様な理念等を整理し、それぞれについて説明できる。
- ③障害児者福祉に関する法律やサービスを整理し、それぞれについて説明できる。
- ④障害児者を取り巻く問題について整理し、主たる要因を分析し説明できる。

2 学習上の注意

- （1）障がいをもつ方の生活状況や問題を知るために日々のニュースや新聞記事等を注意深く見ておくこと。
- （2）講義中に配布する資料をしっかりと保管、管理しておくこと。

3 評価の方法及び基準

以下の内容で総合的に評価する。

- ・科目修得試験70% ・受講状況（演習含む）20% ・ノート10%

4 使用テキスト・参考文献等

（1）使用テキスト

- ①新・介護福祉士養成講座 第2巻「社会の理解」（中央法規出版）
- ②福祉小六法（中央法規出版）

（2）参考文献等

適宜提示する。

（3）その他

講師作成資料配付

5 講義内容

回	講義内容
1	障害の概念について
2	障害者の法的定義について
3	障害者福祉に関する様々な理念について①
4	障害者福祉に関する様々な理念について②
5	障害者福祉関連施策について (・保健・医療・年金・手当)
6	障害者福祉関連施策について (・教育・雇用・就労)
7	障害者福祉関連施策について (・住宅・生活環境)
8	社会福祉基礎構造改革と障害者施策
9	障害者自立支援制度のしくみと基礎的理解① (・自立支援給付と利用者負担・事業者及び施設・専門職の役割)
10	障害者自立支援制度のしくみと基礎的理解② (・サービス利用の流れ・サービスの種類と内容)
11	障害者自立支援制度のしくみと基礎的理解③ (・サービスの種類と内容)
12	障害者自立支援制度における組織、団体の機能と役割① (・国、都道府県、市町村の役割)
13	障害者自立支援制度における組織、団体の機能と役割② (・指定サービス事業所の役割・国民健康保険団体連合会の役割)
14	今後の障害者福祉施策と障害者自立支援制度
15	科目修得試験

履修学年	第2学年
履修時期	前期・後期
履修時間数	60時間
単位数	4単位
授業回数	30回
講師名	川野 哲朗（専任講師）
授業形態	講義
備考	

1 学習目標

(1) 一般目標

- ① 少子高齢社会における高齢者の実態及び社会的状況を把握し、解決されるべき課題を理解する。
- ② 介護保険制度について、創設の背景と目的、制度の概要、動向等の基礎的知識を習得する。
- ③ 介護実践に関連する諸制度や介護福祉士等専門職の役割や連携の基礎的知識を習得する。

(2) 行動目標

- ① 高齢者福祉の社会的背景、課題について把握する。
- ② 介護保険制度の目的や制度の概要について説明できる。
- ③ 介護実践に関連する制度や専門職の役割について説明できる。

2 学習上の注意

- (1) 毎回の授業及び他科目、実践との関連性を意識する。
- (2) 利用者及び介護福祉士、実践現場の視点を持つ。

3 評価の方法及び基準

以下の内容で総合的に評価し、60点以上で単位を認める。

- ・科目修得試験60% ・レポート課題10% ・演習課題10%
- ・ノート（資料添付）10% ・受講状況10%

4 使用テキスト・参考文献等

(1) 使用テキスト

最新・介護福祉士養成講座2 「社会の理解」（中央法規出版）

(2) 参考文献等

福祉小六法（中央法規出版）

※その他、随時提示する。

(3) その他

関連資料等を随時配付する。

5 講義内容

回	トピック	内 容
1	オリエンテーション	・学びのルールについて ・他科目との関連 ・「私の介護観」等
2	現代社会と高齢者	・高齢者福祉の概要
3		・少子高齢化と要介護者の現状 ※演習を含む
4		・社会保障制度と介護保険、介護保険制度の概要
5		・介護保険制度の背景と目的、動向
6	介護保険制度の仕組み	・介護保険制度の仕組みの概要
7		・介護保険の保険者と被保険者、保険給付の対象者
8		・介護サービス利用までの流れ
9		・介護サービスの種類と内容
10		・ // (演習)
11	介護保険制度の関連組織と役割	・国及び都道府県、市町村の役割
12		・指定サービス事業者、国民健康保険団体連合会等の役割
13		・地域支援事業と地域包括支援センターの役割
14		・ // (演習)
15	科目修得試験	
16	介護保険制度における専門職の役割	・介護福祉士、介護支援専門員の役割
17		・関連する専門職の役割と連携、ネットワーク
18		・ // (演習)
19	介護実践に関連する諸制度	・個人の権利と権利擁護について
20		・サービス利用関連制度
21		・虐待防止関連制度
22		・個人情報保護、その他の制度
23	保健・医療に関する諸施策と法制度	・生活習慣病予防、健康づくりのための施策
24		・感染症、難病、エイズ予防対策
25		・医療関係者、医療関係施設に関する法制度
26	生活支援に関する諸制度	・生活保護制度の概要
27		・その他の支援制度 ※演習を含む
28	住生活支援に関する諸制度	・福祉施設、住宅確保 ※演習を含む
29	介護保険制度、高齢者福祉の課題	・まとめ ※あらためて介護福祉士の役割を考える
30	科目修得試験	

介護の基本Ⅱ

履修学年	第2学年
履修時期	前期・後期
履修時間数	90時間
単位数	6単位
授業回数	45回
講師名	千代森 倍世（専任講師）
授業形態	講義
備考	

1 学習目標

(1) 一般目標

利用者にとって最も身近な介護従事者が介護実践を行うためには、知識・技術・人間性を統合し多様な介護現場で利用者の生活の安全を守る基礎的力、応用力を高める必要がある。そのためにも介護従事者自らの健康や安全が、保証されるべきであることへの認識を深め演習や実習、職場においても実践できることを目指し展開する。

(2) 行動目標

- ①ケアマネジメントや職業倫理、リスクマネジメント、そして介護従事者の健康管理などについて学ぶことにより、安全かつ安心できる介護や信頼のおける介護について理解する。
- ②介護の専門性を理解し、利用者が安心して生きがいのもてる生活が営める生活環境を整えることが可能となるよう、危機管理や関係職種間の連携のありかたを理解する。
- ③ケアマネジメント及びケアプランの流れとしくみを通し、生活の場の特性や地域連携のあり方について理解を深めることができる。
- ④介護福祉士の倫理について、「社会福祉士及び介護福祉士法」の規定のもとに理解することができるとともに、実践の場で倫理がどのように活かせるのかについて理解できる。
- ⑤生活者として利用者が安心して生活できる環境を整えるため、介護の場における事故防止や安全対策、感染対策の重要性について理解できる。

2 学習上の注意

- (1) 講義等への理解を深めるため演習と課題を組み入れており、自身で考え学ぶ姿勢をもつ。
- (2) 社会情勢に目を向け今何が起きているのかについて情報を積極的にとること。
- (3) レポート課題に関しては、参考文献等を検索し主体的に取り組み提出期日を必ず守ること。

3 評価の方法及び基準

- (1) 前期、後期の科目修得試験(80%)、レポート内容・提出状況(20%)

4 使用テキスト・参考文献等

- (1) 最新 介護福祉士養成講座 介護の基本Ⅰ・Ⅱ 中央法規
- (2) 参考文献
講師作成資料を随時配布
- (3) その他
授業の中で視聴覚教材を随時使用

5 講義内容

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション <u>介護を必要とする人の理解</u> 介護福祉を必要とする人たちの暮らし	<ul style="list-style-type: none"> ●この講義で何を学ぶのか。内容や評価等について理解できる。 ●介護福祉を必要とする人の理解を理解する。
2	<u>介護を必要とする人の理解</u> 介護福祉を必要とする人たちの暮らし	<ul style="list-style-type: none"> ●この講義で何を学ぶのか。内容や評価等について理解できる。 ●介護福祉を必要とする人の理解を理解する。
3	<u>介護を必要とする人の理解</u> 「その人らしさ」と「生活ニーズ」の理解 生活のしづらさの理解とその支援	<ul style="list-style-type: none"> ●その人らしさや、その多様性について理解する。 ●介護を必要とする人の生活のしづらさの視点について理解する。 ●生活のしづらさを解消するための介護福祉士の視点について理解する。
4	<u>介護を必要とする人の理解</u> 「その人らしさ」と「生活ニーズ」の理解 生活のしづらさの理解とその支援	<ul style="list-style-type: none"> ●その人らしさや、その多様性について理解する。 ●介護を必要とする人の生活のしづらさの視点について理解する。 ●生活のしづらさを解消するための介護福祉士の視点について理解する。
5	<u>介護を必要とする人の生活を</u> <u>支えるしくみ</u> 生活を支えるフォーマルサービスとは	<ul style="list-style-type: none"> ●高齢者の生活を支えるフォーマルサービスを理解する。
6	<u>介護を必要とする人の生活を</u> <u>支えるしくみ</u> 生活を支えるフォーマルサービスとは	<ul style="list-style-type: none"> ●高齢者の生活を支えるフォーマルサービスを理解する。
7	<u>介護を必要とする人の生活を</u> <u>支えるしくみ</u> 生活を支えるフォーマルサービスとは	<ul style="list-style-type: none"> ●高齢者の生活を支えるフォーマルサービスを理解する。
8	<u>介護を必要とする人の生活を</u> <u>支えるしくみ</u> 生活を支えるフォーマルサービスとは	<ul style="list-style-type: none"> ●高齢者の生活を支えるフォーマルサービスを理解する。
9	<u>介護を必要とする人の生活を</u> <u>支えるしくみ</u> 生活を支えるフォーマルサービスとは	<ul style="list-style-type: none"> ●障害者の生活を支えるフォーマルサービスを理解する。
10	<u>介護を必要とする人の生活を</u> <u>支えるしくみ</u> 生活を支えるフォーマルサービスとは	<ul style="list-style-type: none"> ●障害者の生活を支えるフォーマルサービスを理解する。

回	テーマ	内容
11	<u>介護を必要とする人の生活を 支えるしくみ</u> 生活を支えるインフォーマルサービスとは	<ul style="list-style-type: none"> ●フォーマルサービスとインフォーマルサービスの関係について学ぶ ●一般的に想定されるインフォーマルサービスについて学ぶ
12	<u>介護を必要とする人の生活を 支えるしくみ</u> 生活を支えるインフォーマルサービスとは	<ul style="list-style-type: none"> ●フォーマルサービスとインフォーマルサービスの関係について学ぶ ●一般的に想定されるインフォーマルサービスについて学ぶ
13	<u>介護を必要とする人の生活を 支えるしくみ</u> 地域連携	<ul style="list-style-type: none"> ●地域連携の意義と目的について学ぶ。 ●地域連携にかかる組織・団体について学ぶ。
14	<u>介護を必要とする人の生活を 支えるしくみ</u> 地域連携	<ul style="list-style-type: none"> ●地域連携の意義と目的について学ぶ。 ●地域連携にかかる組織・団体について学ぶ。
15	<u>介護における安全の確保と リスクマネジメント</u> 介護における安全の確保	<ul style="list-style-type: none"> ●セーフティマネジメントの考え方を理解する。 ●安全の確保を組織全体で取り組む重要性を学ぶ。
16	<u>介護における安全の確保と リスクマネジメント</u> 介護における安全の確保	<ul style="list-style-type: none"> ●安全の確保を組織全体で取り組む重要性を学ぶ。 ●安全な暮らしの支援が、利用者の尊厳の保持に結びつくことの重要性を理解する。
17	<u>介護における安全の確保と リスクマネジメント</u> リスクマネジメントとは何か	<ul style="list-style-type: none"> ●リスクマネジメントとについて理解する。 ●福祉サービスに求められる安心や安全について学ぶ。 ●事故防止・予防のための対策について学ぶ。
18	<u>介護における安全の確保と リスクマネジメント</u> リスクマネジメントとは何か	<ul style="list-style-type: none"> ●福祉サービスに求められる安心や安全について学ぶ。 ●事故防止・予防のための対策について学ぶ。
19	<u>介護における安全の確保と リスクマネジメント</u> リスクマネジメントとは何か	<ul style="list-style-type: none"> ●事故防止・予防のための対策について学ぶ。
20	<u>介護における安全の確保と リスクマネジメント</u> リスクマネジメントとは何か	<ul style="list-style-type: none"> ●事故防止・予防のための対策について学ぶ。
21	<u>介護における安全の確保と リスクマネジメント</u> 感染症対策	<ul style="list-style-type: none"> ●介護福祉職に必要な感染に関する正しい知識を学ぶ。

回	テーマ	内容
22	<u>介護における安全の確保と</u> <u>リスクマネジメント</u> 感染症対策	<ul style="list-style-type: none"> ●介護福祉職に必要な感染に関する正しい知識を学ぶ。 ●高齢者の特性を理解し、感染症対策について学ぶ。
23	科目修得試験	
24	<u>介護における安全の確保と</u> <u>リスクマネジメント</u> 感染症対策	<ul style="list-style-type: none"> ●高齢者の特性を理解し、感染症対策について学ぶ。 ●感染を予防するための具体的な方法を理解する。
25	<u>介護における安全の確保と</u> <u>リスクマネジメント</u> 感染症対策	<ul style="list-style-type: none"> ●感染を予防するための具体的な方法を理解する。
26	<u>協働する多職種の機能と役割</u> 多職種連携・協働の必要性	<ul style="list-style-type: none"> ●多職種連携・協働の必要性について学ぶ。 ●多職種連携・協働の必要性の目的と効果について学ぶ。
27	<u>協働する多職種の機能と役割</u> 多職種連携・協働の必要性	<ul style="list-style-type: none"> ●多職種連携・協働の必要性について学ぶ。 ●多職種連携・協働の必要性の目的と効果について学ぶ。
28	介護を必要とする人への生活支援	<ul style="list-style-type: none"> ●生活を支えるための具体的支援技術を再確認する。
29	介護を必要とする人への生活支援	<ul style="list-style-type: none"> ●生活を支えるための具体的支援技術を再確認する。
30	介護実践の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ●介護実習Ⅲの実践を通して、利用者の方との関わりを振り返り、課題を考える。
31	介護実践の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ●介護実習Ⅲの実践を通して、利用者の方との関わりを振り返り、課題を考える。
32	<u>協働する多職種の機能と役割</u> 多職種連携・協働に求められる基本的な能力	<ul style="list-style-type: none"> ●介護実践の場で多職種連携・協働が必要とされる意義について学ぶ。 ●問題解決に対する多職種のかかわりには、多様な視点と受容が必要であることを理解する。
33	<u>協働する多職種の機能と役割</u> 多職種連携・協働の実際	<ul style="list-style-type: none"> ●多職種協働に求められるコミュニケーション能力について学ぶ。 ●介護福祉職からみる連携の実態から専門性を学ぶ。

回	テーマ	内容
34	<u>協働する多職種の機能と役割</u> 多職種連携・協働の実際	●介護福祉職主導の連携の実態を学ぶ。
35	<u>介護従事者の安全</u> 健康管理の意義と目的	●働く人の健康や生活を守る法制度を学ぶ。 ●介護従事者の健康管理について学ぶ。
36	<u>介護従事者の安全</u> こころの健康管理・身体の健康管理	●ストレスとこころの健康との関係について学ぶ。 ●介護従事者のこころの病気について学ぶ。 ●介護従事者の身体の健康管理の要因を理解する。
37	<u>介護従事者の安全</u> 労働環境の整備	●労働環境の整備について学ぶ。
38 ～ 42	介護福祉問題について	●新聞等で取り上げられている介護福祉に関する問題を、専門的視点から考えることができる。
43	全体の内容の振り返り	●国家試験問題を基に振り返り
44	全体の内容の振り返り	●国家試験問題を基に振り返り
45	科目修得試験	

生活支援技術Ⅱ

履修学年	第2学年
履修時期	前・後期
履修時間数	90時間
単位数	2単位
授業回数	45回
講師名	江田美代子（非常勤講師）
授業形態	講義・実習
備考	

1 学習目標

(1) 一般目標

- ①生活の中での人間関係を通して、生命の尊厳や人としての在り方を理解し、合わせて自立・自律を考える。
- ②介護における尊厳の保持や自立支援が生活の中でどのように展開され、法律や制度で支えられているかを理解する。
- ③衣食住等の生活に関する知識・技術を習得し、高齢者等一人一人の人権を尊重した自立に向けた介助や支援ができる能力を養う。

(2) 行動目標

- ①家庭生活の変遷、現代の家庭生活のよさや課題を理解して、よりよい家庭生活の在り方を考えることができる。
- ②衣食住等の専門的な知識・技術を習得し、高齢者等の人権を尊重して健康的な生活を支援できる能力を身につける。
- ③衣食住、経済等生活に関する保存・管理、安全性に関する知識・技術を習得し、実践的な態度を身につける。
- ④不測の事態を予測し、その対応方法がわかり実践できる。
- ⑤自立に向けた家事の実習を通して、介助の技法を習得し意欲的に支援できる

2 学習上の注意

- ①グループメンバーと協力し、進んで実習に取り組み、家庭生活を工夫改善する能力を習得し、家庭生活の充実向上を目指す。
- ②配布資料は、専用のファイルに綴じて活用する。
- ③課題やレポートの提出期限は厳守する。

3 評価の方法及び基準

科目修得試験を重視するが、出席状況、受講態度、提出物等により総合的に判断する。

4 使用テキスト、参考文献等

- (1) 使用テキスト 最新 介護福祉士養成校講座6 「生活支援技術」中央法規
オールガイド食品成分表
- (2) 参考文献等
- (3) その他 講師作成資料 視聴覚教材

5 講義内容

回数	テーマ	学 習 内 容	形態
1	居住環境の整備	1 住まいの役割と機能 家族と生活空間	講義
2		2 生活空間 ① 人と空間 人体寸法と動作空間 等	講義
3		② 加齢と生活空間 基本的な留意事項	講義
4		寝室 トイレ 浴室 洗面脱衣室 等	講義
5		3 快適な室内環境 生活と室内環境 室内気候の調整	講義
6		明るさの調整 音環境の調整 住まいの維持・管理	講義
7		4 安全に暮らすための生活環境 ① 日常安全	講義
8		住宅事故の現状 日本家屋の問題点 安全への対応	講義
9		②災害に対する備え	講義
10		○ 住宅の危険個所の発見と安全に暮らすための対応策	演習
11		5 高齢者・障害者の住まい 住まいと地域	講義
12		6 居住環境の整備における多職種と連携	講義
13		○ 住まいに関する問題解決策の研究発表	演習
14		○ 私の理想とする高齢者の住宅	演習
15	自立に向けた家事の介護	A 自立した家事 ①自立を支える家事	講義
16		② 自立した家事の一連の流れ ③自立に向けた家事	講義
17		の介護をするために介護福祉職がすべきこと	講義
18		B 自立に向けた家事の介護 1 食生活の基本知識 食文化	講義
19		① 栄養素 栄養の理解 炭水化物 脂質	講義
20		たんぱく質 無機質 ビタミン	講義
21		○日常食の調理 一汁三菜 調理の基本	実習
22		計量 切り方 だしのとり方 ゆで方 等	実習
23	科目修得試験	前期の学習内容の試験	試験

回数	テーマ	学 習 内 容	形態
24	自立に向けた 家事の介護	②食品衛生	講義
25		③高齢者の身体機能と栄養 高齢者の食事と調理	講義
26		④疾病と食事	
27		状態・状況に応じた食事の留意点	実習
28		易消化食 便秘予防食、減塩食等の調理	実習
29		⑤食品群摂取量 食事バランスガイド	講義
30		⑥ 食生活の課題と食育の必要性 自分の食事の見直し	講義
31		⑦ 嚥下に障害がある方の食事 等	講義
32		班別研究 状態別の夕食の計画、献立作成	演習
33		状態・状況に応じた高齢者の夕食	実習
34		嚥下に障害がある方の食事等	実習
35		2 被服生活の基本知識 ① 被服の管理 洗濯 しみぬき等	講義
36		②薬入れ製作 ボタンつけ スナップつけ	実習
37		③寝具の衛生管理 ④高齢者の被服の工夫	講義
38		3 掃除・ごみ捨て等の介助 ① 浴室 台所 等の掃除	講義
39		②掃除の用具等 ③ 掃除の工夫	講義
40		④ 製作 アクリルたわし等	実習
41		4 買い物 ①収入と支出 ②悪徳商法 ③詐欺への対応	講義
42		5 家庭経営、家計の管理 ○家事支援の介護の実際	演習
43		家事の介護に おける多職種 との連携	1 連携の必要性 2 在宅の場合
44	3 施設の場合		講義
45	科目修得試験	後期の学習内容	試験

履修学年	第2学年
履修時期	前期・後期
履修時間数	90時間
単位数	3単位
授業回数	45回
講師名	秀 亜紀子（専任講師）
授業形態	演習
備考	

1 学習目標

(1) 一般目標

介護を要する人たちが尊厳をもって、日々その人らしく暮らしていくことができるように支援するための考え方や技法の習得を目指す。つまり、その人の状況に合わせた介護を行い、障害などがあってもこれまでの生活が継続されるように、現在の状態を把握し、潜在能力を引き出し、自立を目指してできる可能性を伸ばしていく、個別性を重視した介護の展開を実践できる力を養う。また、技術としての技法を学ぶだけではなく、生活全体を見ながら、今後どのような生活をしていきたいのか、そのためにはどのような支援が適切か、利用者の能力を活用しているか、どうしたら潜在能力が導き出せるか、生き生きと生活していくための支援とは何かなどに着目し自立支援に向けた介護実践の習得を目指す。さらに、利用者の状態・状況に応じた適切な生活支援技術を提供するために基本介護技術を応用技術に発展させて、安全・安楽に支援できる知識や援助方法を習得する。

(2) 行動目標

- ①介護福祉士として習得しておく必要のある I C F の視点に基づくアセスメント能力を活用し、利用者の状態・状況に応じた生活支援技術と知識・技術の応用力を学び、利用者の個別性に対応できる実践能力と自ら考えて対応するための能力を習得する。
- ②対象となる人の障害を理解し、I C F を活用することができる。
- ③障害を持つ人の生活の根拠を理解し、そのための生活支援の目的を習得する。
- ④利用者の状態・状況に応じた生活支援を適切に提供できる技術を習得する。

2 学習上の注意

- (1) 演習時の容姿は整え、協力して行い積極的に参加すること。
- (2) 行う行為に対して根拠を常に意識し、自己を振り返りながら臨むこと。

3 評価の方法及び基準

【前期】科目修得試験70%、提出物25%、平常点5%

【後期】科目修得試験70%、提出物25%、平常点5%

4 使用テキスト・参考文献等

(1) 使用テキスト

最新 介護福祉士養成講座 8 生活支援技術Ⅲ 中央法規

(2) 参考文献

講師作成資料を随時配布

(3) その他

授業の中で視聴覚教材を随時使用

5 講義内容

回	講義内容
1	第1章 利用者の状態・状況に応じた生活支援技術とは 1) 障害や疾病とともに生活する人を支える 2) 介護福祉士の行う「生活支援」 3) 多職種連携のなかでの介護福祉士の役割
2	第2章 障害に応じた生活支援技術Ⅰ 第1節 肢体不自由に応じた介護（講義・演習）
3	1) 肢体不自由の理解 2) 生活上の困りごと（観察の視点）／ 支援の展開
4	第2節 視覚障害に応じた介護（講義・演習）
5	1) 視覚障害の理解 2) 生活上の困りごと（観察の視点）／ 支援の展開
6	第3節 聴覚・言語障害に応じた介護（講義・演習）
7	1) 聴覚障害の理解 2) 生活上の困りごと（観察の視点） 3) 支援の展開
	4) 言語障害の理解 5) 生活上の困りごと（観察の視点） 6) 支援の展開
8	第4節 重複障害<盲ろう>に応じた介護（講義・演習）
9	1) 重複障害とは 2) 盲ろう重複障害の理解 3) 生活上の困りごと（観察の視点）／ 支援の展開
10	第5節 【内部障害】心臓機能障害に応じた介護（講義・演習）※減塩食の調理
11	1) 心臓機能障害の理解 2) 生活上の困りごと（観察の視点）／ 支援の展開
12	第6節 【内部障害】呼吸器機能障害に応じた介護（講義・演習）
13	1) 呼吸器機能障害の理解 2) 生活上の困りごと（観察の視点）／ 支援の展開
14	第7節 【内部障害】腎臓機能障害に応じた介護（講義・演習）
15	1) 腎臓機能障害の理解 2) 生活上の困りごと（観察の視点）／ 支援の展開
16	第8節 【内部障害】膀胱・直腸機能障害に応じた介護（講義・演習）
17	1) 膀胱・直腸機能障害の理解 2) 生活上の困りごと（観察の視点）／ 支援の展開
18	第9節 【内部障害】小腸機能障害に応じた介護（講義・演習）
19	1) 小腸機能障害の理解 2) 生活上の困りごと（観察の視点）／ 支援の展開
20	第10節 【内部障害】HIVによる免疫機能障害に応じた介護（講義・演習）
21	1) HIV感染症の理解 2) 生活上の困りごと（観察の視点）／ 支援の展開
22	科目修得試験

回	講 義 内 容
23 24	第11節 【内部障害】肝臓機能障害に応じた介護（講義・演習） 3) 肝臓機能障害の理解 4) 生活上の困りごと（観察の視点）／ 支援の展開
25 26	第12節 重症心身障害に応じた介護（講義・演習） 5) 重症心身障害の理解 6) 生活上の困りごと（観察の視点）／ 支援の展開
27 28 29 30	第3章 障害に応じた生活支援技術Ⅱ 第3節 高次脳機能障害に応じた介護（講義・DVD・グループワーク・演習） 1) 高次脳機能障害の理解 2) 生活上の困りごと（観察の視点） 3) 支援の展開 4) 高次脳機能障害のある人に応じたレクリエーション計画 5) 高次脳機能障害のある人に応じたレクリエーション発表
31 32	第1節 知的障害に応じた介護（講義・DVD） 1) 知的障害の理解 2) 生活上の困りごと（観察の視点）／ 支援の展開
33 34	第2節 精神障害に応じた介護（講義・DVD） 1) 統合失調症の理解 2) 生活上の困りごと（観察の視点） 3) 支援の展開 4) 気分障害の理解 5) 生活上の困りごと（観察の視点） 6) 支援の展開
35 36	第4節 発達障害に応じた介護（講義・DVD） 1) 発達障害の理解 2) 生活上の困りごと（観察の視点）／ 支援の展開
37 38	第5節 【難病】筋萎縮性側索硬化症（ALS）に応じた介護（講義・演習） 1) 筋萎縮性側索硬化症（ALS）の理解 2) 生活上の困りごと（観察の視点）／ 支援の展開
39 40	第6節 【難病】パーキンソン病に応じた介護（講義・DVD） 1) パーキンソン病の理解 2) 生活上の困りごと（観察の視点）／ 支援の展開
41 42	第7節 【難病】悪性関節リウマチに応じた介護（講義・演習） 1) 悪性関節リウマチ（MRA）の理解 2) 支援の実際－悪性関節リウマチ 3) 関節リウマチ（RA）の理解 4) 生活上の困りごと（観察の視点）－関節リウマチ 5) 支援の展開－関節リウマチ
43 44	第8節 【難病】筋ジストロフィーに応じた介護（講義・演習） 1) 筋ジストロフィーの理解 2) 生活上の困りごと（観察の視点）／ 支援の展開
45	科目修得試験

履修学年	第2学年
履修時期	前期
履修時間数	30時間
単位数	1単位
授業回数	15回
講師名	秀 亜紀子（専任講師）
授業形態	演習
備考	

1 学習目標

(1) 一般目標

介護過程とは、個々の介護ニーズを的確に把握し、計画的に介護を実践・評価していく科学的な問題解決法であることを理解する。利用者のQOL向上に向けて、利用者の真のニーズを把握し、それを実現していくために必要な介護のあり方を、個別に計画を立案し、実施・評価していく一連の流れについて演習を通して理解する。

(2) 行動目標

- ①利用者がよりよい生活を送るためには、介護が必要な利用者の全体像を捉えて、個別の生活課題を解決することが求められる。ICFの概念を取り入れ、利用者の潜在能力を引き出し、活用・発揮することの意義について理解できる。
- ②利用者が主体的な生活が送れるように、自立支援に沿った介護計画を立案するため、一人ひとりの状態を的確に把握できる。
- ③利用者を取り巻く環境を意識し、常に社会の動きに関心を持つことの重要性と、その方法を理解できる。

2 学習上の注意

- (1) 講義・演習に主体的に取り組むことで介護過程展開のプロセスを理解し、対象者を全人的に捉え課題を導き出す力を身につける。
- (2) プライベートな情報を取り扱っている意識を十分に持ち、秘密保持を厳守する。
- (3) 課題に関しては、参考文献等を検索し主体的に取り組み、提出期日を意識した行動をとることができる。

3 評価の方法及び基準

科目修得試験60%、提出物30%、平常点10%

4 使用テキスト・参考文献等

(1) 使用テキスト

最新 介護福祉士養成講座9 介護過程

(2) 参考文献

森 繁樹著「事例で読み解く介護過程の展開」初版 中央法規 2015年
他、講師作成資料を随時配布

5 講義内容

回	テーマ	内容	講義方法
1	<u>介護過程の意義</u>	介護実習Ⅰ、Ⅱにおける受け持ち利用者の介護過程の振り返りをおこない、今後の課題について考える	講義 介護過程の意義・目的について振り返る
2	<u>介護過程の実践的展開</u>	事例検討①	演習 個人ワーク
3	<u>介護過程の実践的展開</u>	事例検討①	演習 個人ワーク
4	<u>介護過程の実践的展開</u>	事例検討①	演習 グループワーク
5	<u>介護過程の実践的展開</u>	事例検討①	演習 グループワーク
6	<u>介護過程の実践的展開</u>	事例検討発表①	演習 グループ発表
7	<u>介護過程の実践的展開</u>	事例検討②	演習 個人ワーク
8	<u>介護過程の実践的展開</u>	事例検討②	演習 個人ワーク
9	<u>介護過程の実践的展開</u>	事例検討②	演習 グループワーク
10	<u>介護過程の実践的展開</u>	事例検討②	演習 グループワーク
11	<u>介護過程の実践的展開</u>	事例検討発表②	演習 グループ発表
12	<u>介護過程の実践的展開</u>	事例検討③	演習 個人ワーク
13	<u>介護過程の実践的展開</u>	事例検討③	演習 個人ワーク
14	<u>介護過程の実践的展開</u>	ワークの提出 試験対策	講義
15	科目修得試験		

履修学年	第2学年
履修時期	後期
履修時間数	60時間
単位数	2単位
授業回数	30回
講師名	秀 亜紀子（専任講師）
授業形態	演習
備考	

1 学習目標

(1) 一般目標

多様なニーズに応えるためのチームアプローチの方法について理解し、他職種との連携について理解を深める。それぞれの事例をとおして介護過程を展開することの必要性を理解すると共に介護実習Ⅲで受け持ったケースを基に介護職としての専門性、倫理性尊厳を基盤とした学問的体系を目指すための研究的態度を養う。

(2) 行動目標

- ①自立度や生活の場に応じた介護、医療・保健との連携協働を必要とする介護、終末期における介護の展開など、様々な利用者の状況に応じた介護過程の展開を理解できる。
- ②介護実践をする上で、利用者を主体とした介護実践計画を考えその根拠を説明できる。
- ③介護を考える視野を広く持ち、考察する力・介護者として自己成長させる態度を養うことができる。

2 学習上の注意

- (1) 講義や実習等を通して学んだ専門的知識を活用し、介護の根拠について理解を深めることができるよう積極的に取り組む。
- (2) 2年間の総まとめとして努力し自己研鑽すること。
- (3) 課題に関しては、主体的に取り組み提出期日を厳守すること。

3 評価の方法及び基準

事例研究評価80%、平常点20%

4 使用テキスト・参考文献等

(1) 使用テキスト

最新 介護福祉士養成講座9 介護過程

(2) 参考文献

講師作成資料を随時配布

5 講義内容

回	テーマ	内容	講義方法
1	<u>介護実習Ⅲ 帰校日</u>	自己学習、巡回教員の指導を仰ぐ	演習 介護過程展開
2	<u>介護実習Ⅲ 帰校日</u>	自己学習、巡回教員の指導を仰ぐ	演習 介護過程展開
3	<u>介護過程のまとめ</u>	介護過程Ⅲの内容・進め方や課題等について説明	講義 演習 介護過程用紙のまとめ
4	<u>事例研究に入る前に</u>	サマリー（介護要約）記載	講義 演習 受け持ちケースをサマリーにまとめる
5	<u>事例研究の展開</u>	事例研究とは何かについて説明	講義 事例研究について説明
6	<u>事例研究の展開</u>	事例研究とは何かについて説明	講義 事例研究について説明
7	<u>事例研究の展開</u>	各自研究	演習 研究
8	<u>事例研究の展開</u>	各自研究	演習 研究
9	<u>事例研究の展開</u>	各自研究	演習 研究
10	<u>事例研究の展開</u>	各自研究	演習 研究
11	<u>事例研究の展開</u>	各自研究	演習 研究
12	<u>事例研究の展開</u>	各自研究	演習 研究
13	<u>事例研究の展開</u>	各自研究	演習 研究
14	<u>事例研究の展開</u>	各自研究	演習 研究
15	<u>事例研究の展開</u>	各自研究	演習 研究
16	<u>事例研究の展開</u>	各自研究	演習 研究
17	<u>事例研究の展開</u>	各自研究	演習 研究
18	<u>事例研究の展開</u>	各自研究	演習 研究
19	<u>事例研究の展開</u>	各自研究	演習 研究
冬季休暇中（12/26～1/11）に「総合考察」の合格をもらうこと。			

回	テーマ	内容	講義方法
20	<u>事例研究の展開</u>	各自研究	演習 研究
21	<u>事例研究の展開</u>	各自研究	演習 研究
22	<u>事例研究の展開</u>	各自研究	演習 研究
23	<u>事例研究の展開</u>	各自研究	演習 研究
24	<u>事例研究の展開</u>	各自研究	演習 研究
25	<u>事例研究発表準備</u>	資料印刷・配布	演習 印刷・製本
26	<u>事例研究発表準備</u>	発表準備	演習 読み原稿作成 発表の練習
27	<u>事例研究発表準備</u>	会場設営	演習 会場設営／各自準備
28 29	事例研究発表	事例研究発表	演習 事例研究発表／聴講
30	事例研究発表	事例研究発表	演習 事例研究発表／聴講

履修学年	第2学年
履修時期	前期・後期
履修時間数	30時間
単位数	1単位
授業回数	15回
講師名	秀 亜紀子（専任講師）
授業形態	演習
備考	

1 学習目標

(1) 一般目標

講義や生活支援技術等の演習で学んだことを、実習先で一人ひとりの要介護者の生活支援に活かすためには、知識や技術の統合力や応用力、実践力が必要になる。次段階実習に向けて、自己課題に取り組む姿勢を強化し、他職種との連携、緊急時の対応法などを学ぶ。また、専門科目で学んだことを実習先で役立てられるよう、関心をもつことの大切さや疑問、不安等を解決していく能力を養う。

(2) 行動目標

- ①介護実習に向けての心構えや、予備知識、動機づけ等の準備や実習後の振り返りを行うことで、効果的な介護実習を行えるようにする。また、さまざまな生活ニーズを持った利用者に対し多様なサービスを提供するためには、他職種協働の意義や役割を理解することが重要である。これまで学んだ知識、技術を実習で展開するための柔軟性や応用力、判断力などを養う。
- ②介護実習での体験を振り返り、自己の言動を具体的に言語化できる。
- ③個別ケアや多様なサービス形態のあり方を理解できる。
- ④介護福祉士に求められる倫理性と専門性を明確にできる。

2 学習上の注意

- (1) グループワーク等では、お互いに協力しあい自分の意見を述べること。
- (2) 他者の意見にも耳を傾け、お互いに学びあう姿勢をもつこと。
- (3) 日頃から、他者から見た自分を意識して振り返りを行う。

3 評価の方法及び基準

提出物50%、平常点50%

4 使用テキスト・参考文献等

(1) 使用テキスト

最新 介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習

(2) 参考文献

介護実習要項

5 講義内容

回	講 義 内 容
1	・年間の実習計画を理解し、介護実習Ⅳの関係書類を作成する。(証明写真撮影)
2	・介護実習Ⅳについて事前学習を通して理解を深める。
3	・実習前オリエンテーションに参加し、施設の概要を理解する。
4	・実習での自己の振り返りや、今後の課題を言語化し実習報告会に臨む。
5	・介護実習Ⅳの報告会を実施し、発表及び聴講を通して各自の学びを共有し、自分とは異なる視点や捉え方に気づく。
6	・介護実習Ⅲへの導入を円滑に行うために、実習にあたっての心得や具体的な展開方法などを理解する。
7	・介護実習Ⅲの関係書類を作成する。
8	・介護実習Ⅲについて意義・目的を理解し、実習目標を立てる。
9	・介護実習Ⅲについて事前学習を通して理解を深める。
10	・実習前オリエンテーションに参加し、施設の概要を理解する。
11	・介護実習Ⅲについて事前準備を行う。
12	・実習での自己の振り返りや、今後の課題を言語化し実習報告会に臨む。
13	・実習での自己の振り返りや、今後の課題を言語化し実習報告会に臨む。
14	・報告会に向けて、資料作成・印刷、発表の練習を行う。
15	・介護実習Ⅲの報告会を実施し、発表及び聴講を通して各自の学びを共有し、自分とは異なる視点や捉え方に気づく。

履修学年	第2学年
履修時期	前期
履修時間数	30時間
単位数	2単位
授業回数	15回
講師名	秀 亜紀子（専任講師）
授業形態	講義
備考	

1 学習目標

(1) 一般目標

認知症の人を支えるために特徴的な行動を理解し、その背景を学ぶことで虐待や不適切介護を生じさせないための知識や具体的対応につなげられることを学ぶ。また、介護福祉士として家族への支援の重要性や他職種や地域との連携や協働による継続的ケアの必要性を理解する。

(2) 行動目標

- ① 認知症に伴う、こころとからだの変化などの基礎知識を習得した上で、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する。
- ② 認知症の人の特徴的な心理と行動を理解できる。
- ③ 認知症による日常生活への影響を理解できる。
- ④ 家族や地域との具体的連携のための方法を理解できる。

2 学習上の注意

- (1) グループワーク等では、お互いに協力しあい自分の意見を述べること。
- (2) 他者の意見にも耳を傾け、お互いに学びあう姿勢をもつこと。
- (3) 認知症の理解を深めるために、体験を通してイメージ化しながら取り組むこと。

3 評価の方法及び基準

科目修得試験75%、提出物20%、平常点5%

4 使用テキスト・参考文献等

(1) 使用テキスト

最新 介護福祉士養成講座13 認知症の理解 中央法規

(2) 参考文献

講師作成資料を随時配布

(3) その他

授業の中で視聴覚教材を随時使用

5 講義内容

回	講 義 内 容
1	認知症の理解 I の振り返り ・確認テスト
2	認知症の人の行動・心理症状 ＜演習＞ 介護漫画「ヘルプマン」の一場面を読んで、中核症状と BPSD についての理解を深め、かかわりのポイントを模索することができる
3	認知症の人の行動・心理症状 ＜演習＞ 上記についてグループ発表
4	認知症に伴う心と身体の変化と日常生活 ・認知症の人の特性を踏まえたアセスメントを理解する
5	センター方式について ・シートの成り立ちとねらい ・それぞれのシートのねらい ＜演習＞ A-4 私の支援マップシート
6	＜演習＞ B-2 私の生活史シート B-3 私の暮らし方シート C-1-2 私の姿と気持ちシート
7	＜演習＞ D-1 私ができること・私ができないことシート D-2 私がわかること・私がわからないことシート D-4 24時間生活変化シート E 24時間アセスメントまとめシート
8	認知症の支援の為の連携と協働 ・認知症高齢者に対する虐待事例について検討
9	認知症の支援の為の連携と協働 ・事例検討発表
10	認知症の人を地域で支える ・DVD 視聴
11	認知症を取り巻く現状 ・認知症をテーマにした映画観賞
12	認知症を取り巻く現状 ・認知症をテーマにした映画観賞
13	認知症の人の家族への支援 ・実際の事件・事故をもとに事例検討 ～地域におけるサポート体制について理解を深める～
14	認知症の人の家族への支援 ・事例検討発表
15	科目修得試験

障 害 の 理 解 I

履 修 学 年	第 2 学 年
履 修 時 期	前 期
履 修 時 間 数	15 時 間
単 位 数	1 単 位
授 業 回 数	8 回
講 師 名	松 浦 ゆ う 子 (非 常 勤 講 師)
授 業 形 態	講 義
備 考	

1 学 習 目 標

(1) 一 般 目 標

障害のある人を理解するために、障害に関する基本的知識を習得するとともに、人間の尊厳を基調とした、リハビリテーション等の理念を理解し、介護に従事する者としての視点を習得する。

(2) 行 動 目 標

- ①障害の捉えかたについて理解できるようになること
- ②リハビリテーションの理念について理解できるようになること

2 学 習 上 の 注 意

テキストを基本として講義が進められます。講義では常にリハビリテーションの理念を模索し疑問を持ちながら参加することが望まれます。

3 評 価 の 方 法 及 び 基 準

- (1) 当科目は、基本的に科目修得試験にて評価をおこないます。
- (2) 学科目履修規程第6条に規定する基準に基づくものとします。

4 使 用 テ キ ス ト ・ 参 考 文 献 等

(1) 使 用 テ キ ス ト

新・介護福祉士養成講座 13 障害の理解 中央法規

(2) 参 考 文 献

- ①必要に応じて提示する

(3) そ の 他

- ①講師作成資料配布

5 講義内容

回	講 義 内 容
1	<ul style="list-style-type: none"> ●オリエンテーション・講義の概要 ・今後の講義の進め方について説明 ・講義内容の概要説明 ・障害・リハビリテーションに関する知識の確認
2	<ul style="list-style-type: none"> ●障害の基礎的理解・障害の概念 ・障害のとらえ方 ・ICIDH、ICF の理解
3	<ul style="list-style-type: none"> ●障害の基礎的理解・障害の概念 ・実際のケース例をとおして、障害の捉えかた（ICIDH・ICF）の理解を深める。
4	<ul style="list-style-type: none"> ●障害の基礎的理解・障害福祉の基本理念 ・ノーマライゼーションの理念
5	<ul style="list-style-type: none"> ●障害の基礎的理解・障害福祉の基本理念 ・リハビリテーションの理念 リハビリテーションという言葉の意味 リハビリテーションの理念の発展
6	<ul style="list-style-type: none"> ●障害の基礎的理解・障害福祉の基本理念 ・リハビリテーションの体系 <ul style="list-style-type: none"> 医学的リハビリテーション 教育的リハビリテーション 社会的リハビリテーション 職業的リハビリテーション
7	<ul style="list-style-type: none"> ●障害の基礎的理解・障害福祉の基本理念 ・リハビリテーションの体系 <ul style="list-style-type: none"> 障害のレベルとリハビリテーション リハビリテーションに関わる専門職
8	科目修得試験

障 害 の 理 解 I

履修学年	第2学年
履修時期	前期
履修時間数	15時間
単位数	1単位
授業回数	8回
講師名	宮下 清子（専任講師）
授業形態	講義
備考	

1 学習目標

(1) 一般目標

- ①介護福祉士として障害者（児）を支援する際に必要な障害のある人の生活の理解、障害が及ぼす心理的影響について理解し、専門職として支援のあり方を考える。
- ②家族の障害に対する受容について学ぶことで、家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を身につける。

(2) 行動目標

- ①障害の特性と障害のある人の生活について理解する。
- ②家族への支援として、障害のある人を取り巻く環境に焦点をあて、家族支援のあり方を学ぶ。

2 学習上の注意

- (1) 視聴覚教材等を通しての事例を活用し、障害者（児）との援助関係について他の教科目との関連を意識しながら、自分自身の関わり方を考えられるようにすること。
- (2) レポート提出等は期限を守ること。

3 評価の方法及び基準

- (1) 科目修得試験、課題提出状況、出席状況ならびに受講態度等を総合して評価する。

4 使用テキスト・参考文献等

(1) 使用テキスト

最新・介護福祉士養成講座⑭ 障害の理解 中央法規出版

(2) 参考文献等

授業中に紹介する。

(3) その他

講師作成資料配付

5 講義内容

回	講 義 内 容
1	はじめに
	障害のある人の生活の理解
	① 知的障害のある人の生活
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害の特性
2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害の特性に応じた支援
	<ul style="list-style-type: none"> ・ ライフステージに応じた関わり方
3	② 発達障害のある人の生活
	<ul style="list-style-type: none"> ・ それぞれの発達障害の特性
4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活の特性と生活支援
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者への支援と支援機関との連携
5	③ 重複障害のある人の生活
	<ul style="list-style-type: none"> ・ それぞれの重複障害の特性
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害の特性に応じた支援
6	④ 重症心身障害のある人の生活の理解
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害の特性
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害の特性に応じた支援
7	家族への支援
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家族に障害のある人がいるということ
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家族の介護力の評価と介護負担の軽減
8	科目修得試験

履修学年	第2学年
履修時期	後期
履修時間数	30時間
単位数	2単位
授業回数	15回
講師名	田中 龍子（専任講師）
授業形態	講義
備考	

1 学習目標

(1) 一般目標

心身に障害を持っている人、持っていない人の違いを各個人が思い、考えることができることを大事にした講義展開をおこなう。障害を理解するためには、心身の機能について学習することが大事になる。この教科では、障害のある利用者を医学的側面の基礎知識を中心に学ぶ。また、障害を持つことで介護福祉士として日常生活にどのような理解、介護視点をもつことが必要かについても理解できることを目標とする。

(2) 行動目標

- ①医学的側面からの基礎知識として、身体、精神、知的・発達障害、難病などについて学びその症状や合併症などが日常生活に及ぼす影響を理解した上で、障害のある人やその介護者を含めた生活支援を行うための根拠となる知識を習得することができる。
- ②障害が及ぼす心理的影響や障害の受容、日常生活への影響を「生活支援技術」と関連づけて理解することができる。
- ③地域におけるサポート体制や多職種協働のあり方、家族への支援について理解できる。
- ④障害の知識及び具体的な症状とその背景や原因を知り、自立に向けてどのような介護が望ましいのかについて考えることができる。
- ⑤障害のある人の意欲や主体的な行動を支え、地域で安心して暮らしていけるように本人の立場にたった見守りと生活支援について理解できる。
- ⑥身体障害のある人について、日常生活に及ぼす影響を考慮し、残存能力・潜在能力の活用あんどを含めて理解できる。
- ⑦障害の種類や特性に応じた、医療職との連携の必要性について理解できる。

2 学習上の注意

- (1) 専門的知識を学ぶ上で、しっかりと講義を聴く姿勢を大事にすること。
- (2) 専門用語については、その内容の1つ1つを誤字なく記載でき、その内容についても理解できるよう学習する。
- (3) レポート課題に関して、参考文献を検索し主体的に取り組み提出期限を必ず守ること。

3 評価の方法及び基準

- (1) 科目修得試験60%、演習課題30%、受講状況10%

4 使用テキスト・参考文献等

- (1) 使用テキスト
13 障害の理解 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規
- (2) 参考文献
障害の理解 最新介護福祉全書11 メジカルフレンド社
- (3) その他

5 講義内容

回	講 義 内 容
1	視覚障害 1 視覚障害とは 2 種類 3 原因 4 特性の理解 5 支援
2 3	聴覚障害 言語障害
4 5	内部障害 ※個人ワーク 1 心臓機能障害 2 腎機能障害 3 膀胱・直腸機能障害 4 小腸機能障害 5 ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害 6 肝機能障害
6 7 8 9	内部障害についての発表・説明 呼吸機能障害について
10 11	精神障害 1 精神障害とは 2 種類 3 原因 4 特性の理解 5 支援
12	難病 1 難病とは 2 種類 3 原因 4 特性の理解 5 支援
13 14	国家試験対策 全体のふり返り
15	科目修得試験

5

履修学年	第2学年
履修時期	前期
履修時間数	30時間
単位数	2単位
授業回数	15回
講師名	椎屋 良子（専任講師）
授業形態	講義
備考	

1 学習目標

(1) 一般目標

介護サービスを実際に行う場合の根拠について学び、理解していくための内容である。現在、介護ニーズは多様化しておりそれに答えるべき専門性を身につけていくことが必要である。この教科では、排泄・睡眠・死にゆく人のこころとからだのしくみについての知識を深めていくことを目標とする。

(2) 行動目標

- ①介護実践の最も基礎的な根拠を学ぶ。これは医療職を中心とした多職種との協働の基礎となり、また介護を必要とする人々の安全と安心の基礎となる。この教科では、排泄・睡眠・死にゆく人のこころとからだのしくみの3つの内容についての理解を深めることを目的とする。
- ②排泄・睡眠に関連したこころとからだのしくみについて基本的理解をはかることができる。
- ③死にゆく人のこころとからだのしくみ（死の捉え方、終末期から死に至るからだの理解、「死」に対するこころの理解）について基本的理解をはかることができる。
- ④利用者の「いつもの様子」から、こころとからだの状態変化に気づく観察の視点を学び医療関係職種との連携がとれる知識を習得することができる。
- ⑤生活行為の援助においてその根拠について説明することができる。
- ⑥チームの一員として協働するため、多職種との連携に必要な共通専門用語について理解できる。

2 学習上の注意

- (1) 専門的知識を学ぶ上で、しっかりと講義を聴く姿勢を大事にすること。
- (2) 専門用語については、その内容の1つ1つを誤字なく記載でき、その内容についても理解できるよう学習する。
- (3) レポート課題に関しては、参考文献等を検索し主体的に取り組み提出期日を必ず守ること。

3 評価の方法及び基準

- (1) 科目修得試験を実施
- (2) 出席状況、受講態度、グループワークの参加状況等も評価の対象とする。

4 使用テキスト・参考文献等

- (1) 使用テキスト
 - ①「こころとからだのしくみ」 最新介護福祉全書12 メジカルフレンド社
- (2) 参考文献
 - ①介護に使えるワンポイント医学知識 中央法規
 - ②高齢者の医学知識 中央法規 白井 孝子
 - ③医学一般 中央法規
 - ④介護職員基礎研修テキスト第3巻・第7巻 全国社会福祉協議会
 - ⑤イラストで学ぶ解剖・生理学 医学書院

(3) その他

5 講義内容

回	講 義 内 容
1	第7章 「排泄」に関連したところとからだのしくみ<講義>
2	1) 排泄に関連する基礎知識
3	・便 ・尿
4	2) 排泄の意義としくみ ・人間にとって排泄とは何か ・排泄はどのようにおこなわれるのか ・排泄のしくみが乱れる機能低下・障害 1) 機能の低下・障害が及ぼす排泄への影響 ・排泄行動が困難になる機能低下・障害 ・排泄のしくみが乱れる機能低下・障害 5) 異常の発見のために注意すべき「変化」
5	第8章 「睡眠」に関連したところとからだのしくみ<講義>
6	1) 睡眠に関する基礎知識
7	・睡眠の生理的意味 ・加齢による睡眠時間および睡眠構造の変化
8	2) 睡眠に関連したところとからだのしくみ ・ストレスと睡眠 ・生活習慣と睡眠 1) 高齢者の睡眠障害
9	第9章 死にゆく人のところとからだのしくみ<講義・ビデオ>
10	1) 「死」の捉え方
11	2) 終末期からの危篤時・死亡時のからだの理解
12	・終末期から危篤期のからだ ・死亡時のからだ ・死後の身体的変化 3) 「死」に対するところの理解 4) 医療職との連携
13	「ところとからだのしくみ」振り返り<講義>
14	・身体の骨、筋肉、関節、神経 ・呼吸器系、循環器系、感覚器系
15	科目修得試験

履修学年	第2学年
履修時期	前期
履修時間数	30時間
単位数	1単位
授業回数	15回
講師名	椎屋良子・田中龍子（専任講師）
授業形態	演習
備考	

1 学習目標

(1) 一般目標

喀痰吸引・経管栄養の手技について担当教員の指導を受けながら、利用者の方の心身の状態を正確に観察し、根拠に基づいた知識の理解のもとに安全・安楽かつ効果的に実施できる技術を学ぶことを理解する。また、一人の人間の命を守る行為であることを認識し、実践できる判断力総合力を養うことができることを目標とする。

(2) 行動目標

- ①口腔内吸引が、シュミレーターを用いて、効果的に演習でき根拠に基づき一人で実施できる。
- ②鼻腔内吸引が、シュミレーターを用いて、効果的に演習でき根拠に基づき一人で実施できる。
- ③気管カニューレ内部の吸引が、シュミレーターを用いて、効果的に演習でき根拠に基づき一人で実施できる。
- ④胃ろうまたは腸ろうの経管栄養をシュミレーターを用いて、効果的に演習でき根拠に基づき一人で実施できる。
- ⑤経鼻の経管栄養をシュミレーターを用いて、効果的に演習でき根拠に基づき一人で実施できる。

2 学習上の注意

- ① グループ演習形式で実施するため、自身の進捗状況を図るだけでなくグループ全体が同一の取り組みができ、技術を向上できる姿勢を心がける。
- ② 一つ一つ専門知識を深めるためにも積極的に参加し、内容についての復習を行うよう努力し主体性をもって取り組む。
- ③ 人の命を守る行為の演習であることを念頭に丁寧に、謙虚に取り組む姿勢をもつ。

3 評価の方法及び基準

- ①実技試験（喀痰吸引・経管栄養の演習試験共に60点以上とれた場合を修得とする。）

4 使用テキスト・参考文献等

(1) 使用テキスト

- ①介護職員等による喀痰吸引・経管栄養研修テキスト（社）全国訪問看護事業協会 編集 中央法規
- ②介護職員等による喀痰吸引・経管栄養研修テキスト 指導者用 指導上の留意点とQ&A
（社）全国訪問看護事業協会 編集 中央法規

(2) 参考文献等

- ①見てわかる医療スタッフのための痰の吸引 基礎と技術 学研

(3) その他 ビデオ等の視聴覚教材

5 講義内容

回	テーマ	内容	講義方法	
1	●口腔内吸引 ●鼻腔内吸引	・口腔内吸引の手順・内容について理解する。 ・鼻腔内吸引の手順・内容について理解する。	演習	教員がデモンストレーションを実施し、各グループで演習を実施する。
2	●胃ろう・腸ろうによる経管栄養	・経管栄養の手順・内容について理解する。	演習	教員がデモンストレーションを実施し、各グループで演習を実施する。
3	●気管カニューレ内部吸引	・気管カニューレ内吸引の手順・内容について理解する。	演習	教員がデモンストレーションを実施し、各グループで演習を実施する。
4	●経鼻経管栄養	経管栄養の手順・内容について理解する。	演習	教員がデモンストレーションを実施し、各グループで演習を実施する。
5	●口腔内吸引 ●鼻腔内吸引 ●気管カニューレ内部吸引	各実施手引きにそって進めていく。	演習	各グループで演習を実施し、教員が随時チェックする。
6	●胃ろう・腸ろうによる経管栄養 ●経鼻経管栄養	各実施手引きにそって進めていく。	演習	各グループで演習を実施し、教員が随時チェックする。
7	●口腔内吸引 ●鼻腔内吸引 ●気管カニューレ内部吸引	各実施手引きにそって進めていく。	演習	各グループで演習を実施し、教員が随時チェックする。
8	●胃ろう・腸ろうによる経管栄養 ●経鼻経管栄養	各実施手引きにそって進めていく。	演習	各グループで演習を実施し、教員が随時チェックする。
9	●口腔内吸引 ●鼻腔内吸引 ●気管カニューレ内部吸引	各実施手引きにそって進めていく。	演習	各グループで演習を実施し、教員が随時チェックする。
10	●胃ろう・腸ろうによる経管栄養 ●経鼻経管栄養	各実施手引きにそって進めていく。	演習	各グループで演習を実施し、教員が随時チェックする。
11	●口腔内吸引 ●鼻腔内吸引 ●気管カニューレ内部吸引	各実施手引きにそって進めていく。	演習	各グループで演習を実施し、教員が随時チェックする。
12	●胃ろう・腸ろうによる経管栄養 ●経鼻経管栄養	各実施手引きにそって進めていく。	演習	各グループで演習を実施し、教員が随時チェックする。
13	●口腔内吸引 ●鼻腔内吸引 ●気管カニューレ内部吸引	各実施手引きにそって進めていく。	演習	各グループで演習を実施し、教員が随時チェックする。
14	●胃ろう・腸ろうによる経管栄養 ●経鼻経管栄養	各実施手引きにそって進めていく。	演習	各グループで演習を実施し、教員が随時チェックする。
15	実技試験	●口腔内吸引 ●鼻腔内吸引 ●気管カニューレ内部吸引●胃ろう・腸ろうによる経管栄養 ●経鼻経管栄養	演習	1人ずつ、各内容にて実技試験を受ける。

履修学年	第2学年
履修時期	前期
履修時間数	30時間
単位数	1単位
授業回数	15回
講師名	崎田 ゆかり（専任講師）
授業形態	演習
備考	

1 学習目標

(1) 一般目標

基本的なビジネスアプリケーションの操作方法の基礎をマスターする。

(2) 行動目標

- (1) タッチタイピングの基本を身につける。
- (2) OA 機器関連の用語を覚え、意味を知る。
- (3) ビジネス文書の定型文書形式を理解し、定型文書、慣用表現を覚える。
- (4) word、Excel 等の基本操作ができる

2 学習上の注意

特に初心者は、周囲との「入力スピードの差」が気になるものであるが、初めての授業であれば差があっても当たり前、とにかく慣れること。練習を重ねていくことで使いこなせるようになる。

3 評価の方法及び基準

科目修得試験 60%、自己紹介発表 20%、出席状況・態度 20%

4 使用テキスト・参考文献等

- (1) 使用テキスト 速効パソコン講座 Word&Excel2016

5 講義内容

回	講 義 内 容
1	オリエンテーション、キータイピング
2	Word の基礎① 文字入力
3	Word の基礎② フォントの操作、インデント
4	Word の基礎③ 図
5	Word の基礎④ 表
6	Word の応用① ビジネス文書作成
7	Word の応用② チラシの作成
8	Excel の基礎①
9	Excel の基礎②
10	Excel の基礎③
11	Excel の基礎④
12	Power Point の基礎① 使用方法、自己紹介プレゼン作成
13	Power Point の基礎② 自己紹介プレゼン作成
14	Power Point の基礎③ 自己紹介発表
15	科目修得試験

全学連携演習 I・II
～ごちゃまぜスクール～

履修学年	第1学年・第2学年
履修時期	第1学年 通年・第2学年 通年
履修時間数	各学年 15 時間
単位数	各学年 1 単位
授業回数	8 回
講師名	各グループ担当教員
授業形態	演習
備考	

1 学習目標

(1) 一般目標

本校では、医療、介護福祉、保育、幼児教育分野それぞれの専門的な学習を行っている。将来、それぞれの専門職として活躍するためには、他の専門職と連携を図りながら実践していく。その第一歩として、本校で学ぶ仲間と交流を図りながら、自らが学ぶ学習領域以外にも触れていき、その経験を将来それぞれの立場で活用可能なものにしていくことを目的とする。

(2) 行動目標

- (1) 学年、学科を越えた仲間との積極的な交流を図る。
- (2) 自らの学習領域以外の分野に触れて理解を深める。
- (3) 交流の中で、意見交換を行いながら、各個人が意見や考えを持ち、それをもとに主体的に行動する態度を涵養する。

2 学習上の注意

別冊「全学連携演習ファイル」にて、実施場所、内容等を事前に確認しておくこと。

3 評価の方法及び基準

評価の対象及び基準

出席状況及び活動状況 (60%)、活動記録及び総括レポート提出 (40%)

4 使用テキスト・参考文献等

- (1) 使用テキスト

なし

- (2) 参考文献等

なし

- (3) その他

別冊「全学連携演習ファイル」を毎回持参しておくこと

5 講義内容

回	講義内容
1	オリエンテーション (主旨説明及びグループ内交流等)
2～7	各学科体験授業及びグループ間交流
8	まとめ (「全学連携演習を振り返って」レポート作成)

※各グループに応じて活動回の内容等が指定されます。

別冊「全学連携演習ファイル」を参照すること。

令和2年度
教 育 要 項

発行日 令和2年4月1日

学校法人 東洋学園

宮崎医療管理専門学校

教務部 介護福祉科

〒889-1701 宮崎県宮崎市田野町甲1556-1

TEL 0985-86-2271

FAX 0985-86-2273

URL <http://www.toyomc.jo>